

始



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 [80] 1 2 3 4 5



新 瀋 遊 覽 案 內

持100
413

新潟遊覧案内

……目次……

一、序……………

一、我新潟は何にを誇るべきか？ 一

新潟市長 柴崎雪次郎

一、衛生より見た新潟の氣候と海水浴……………二

新潟北濱病院長 山田直治

一、教育の現状と社會事業……………

新潟市社會教育主事

一、新潟市の概説……………

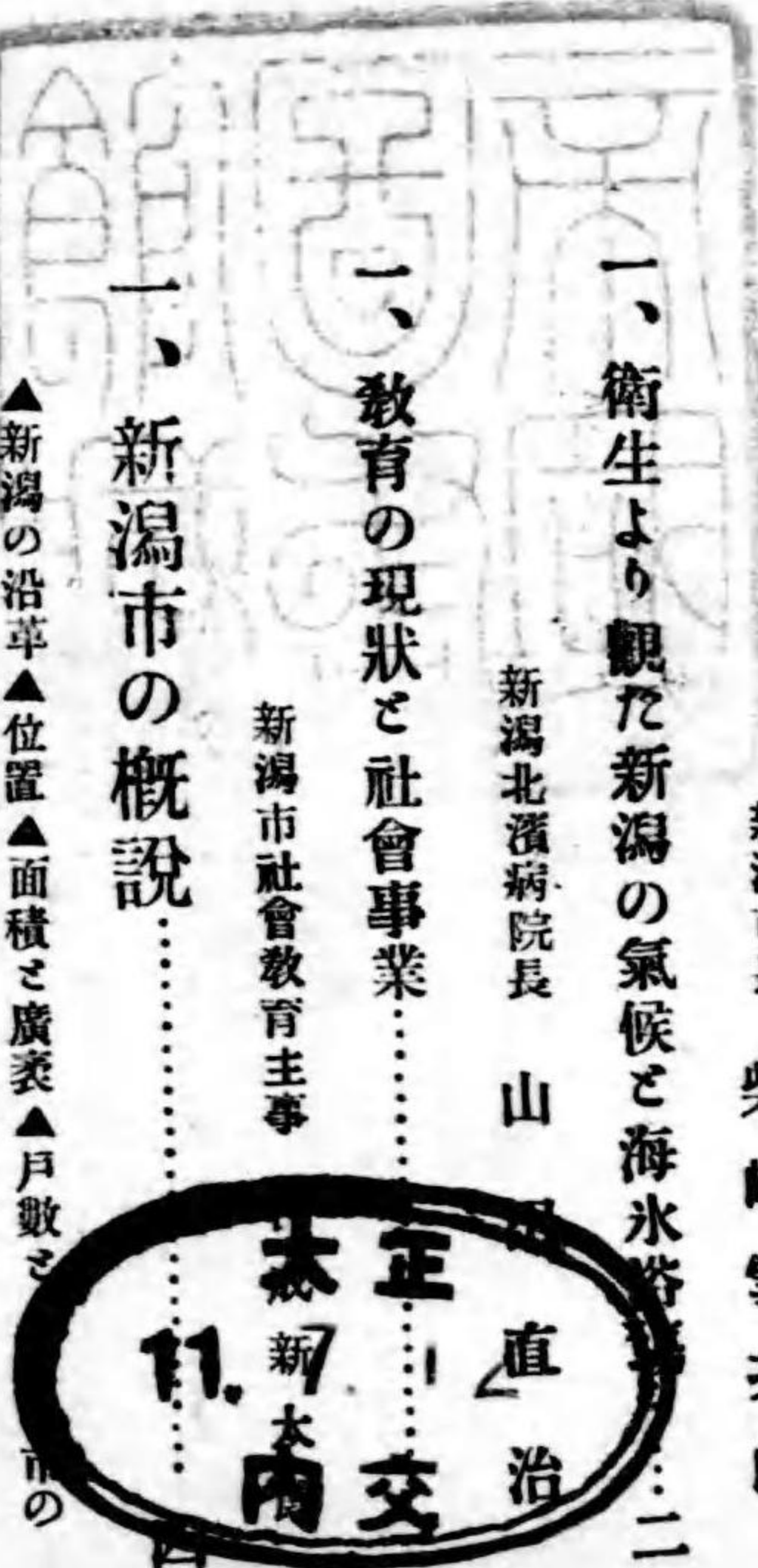
▲新潟の沿革 ▲位置 ▲面積と廣表 ▲戸數 ▲市の豫算 ▲衛生設備 ▲交通と賃金 ▲新潟の氣候。

一、本市の教育機關……………八

▲市立學校 ▲私立學校 ▲縣立學校 ▲官立學校。

一、商工業の現況……………十

▲商工業地 ▲商習慣 ▲金融機關 ▲取引所と交換所 ▲重



要工産品▲會社工場組合▲商品陳列所▲商業會議所▲
商店研究會▲勸商場と朝市場。

一、遊覽の地と旅館案内……………十二

▲白山公園▲招魂社▲日和山▲海濱▲港口▲新潟鐵工
場▲製油所▲親鸞上人舊蹟▲蓮如上人舊蹟▲大儒竹内
式部碑。

一、地方色としての新潟の俗謠……………1

▲哀調の追分▲野趣の盆唄▲市教育會の郷土歌。

一、歴史的の新潟……………4

▲新潟をよめる俳句▲俗謠▲新潟の川開きと住吉祭▲
新潟のそん言葉。

一、料理店……………7

▲三個所の花街▲日本料理▲西洋料理▲待合茶屋。

一、今昔の新潟の女……………15

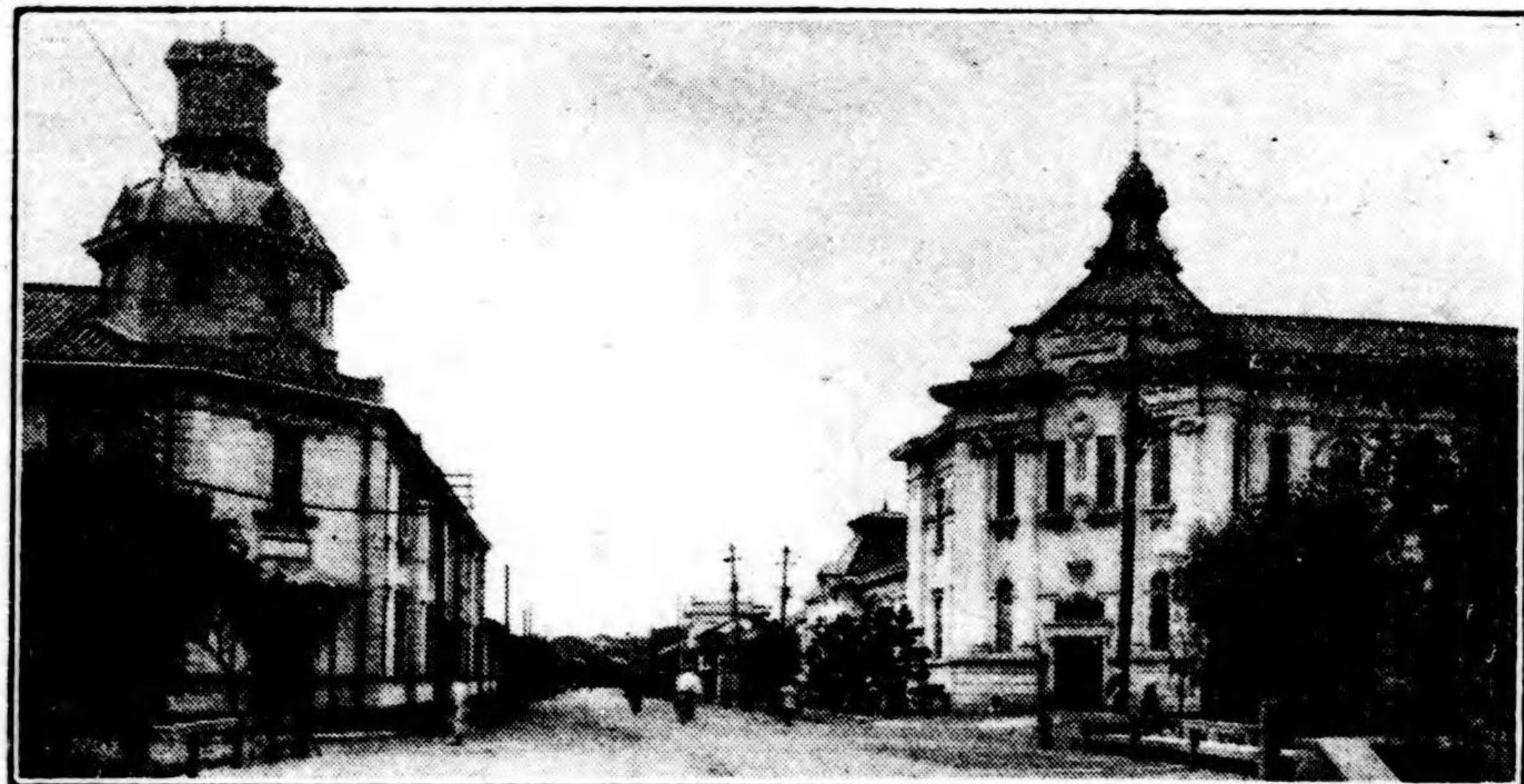
▲人形の様な女▲時は移り行く▲男の子と杉の木▲た
披露芽▲新潟名物(歌詞)

一、遊藝と演藝から見た新潟……………20

▲舞踊の師匠▲新曲とお座敷▲師匠と遊藝調べ▲演藝
機關。

一、附録——風景寫眞、人物寫眞

◇ 堅 中 の 政 市 ◇



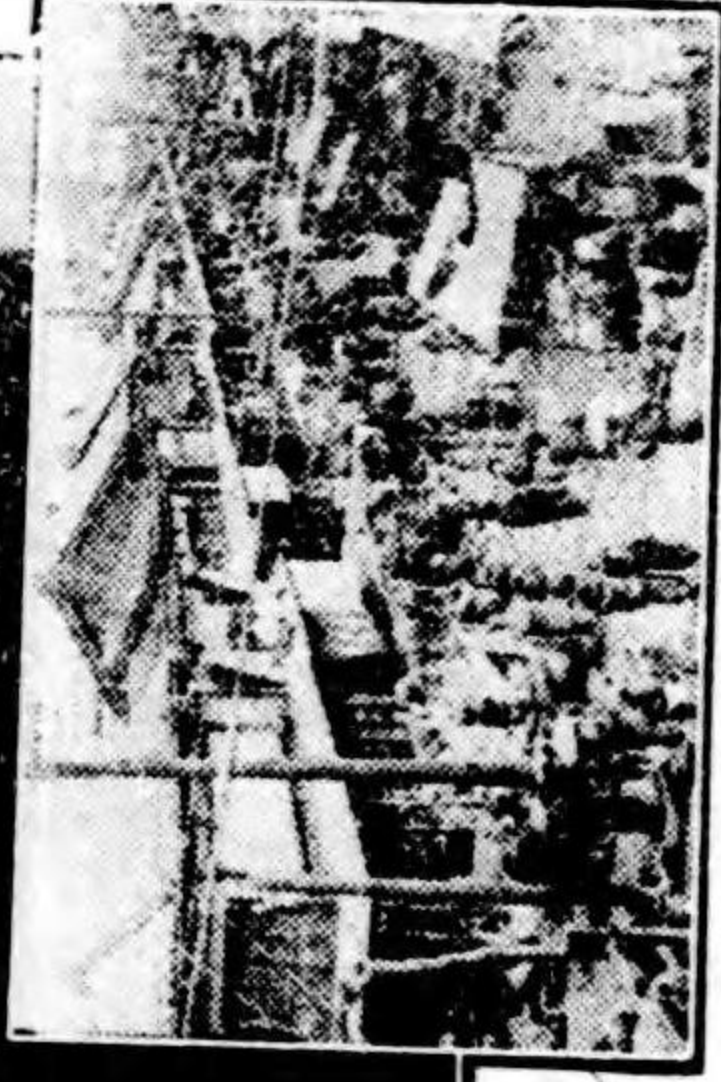
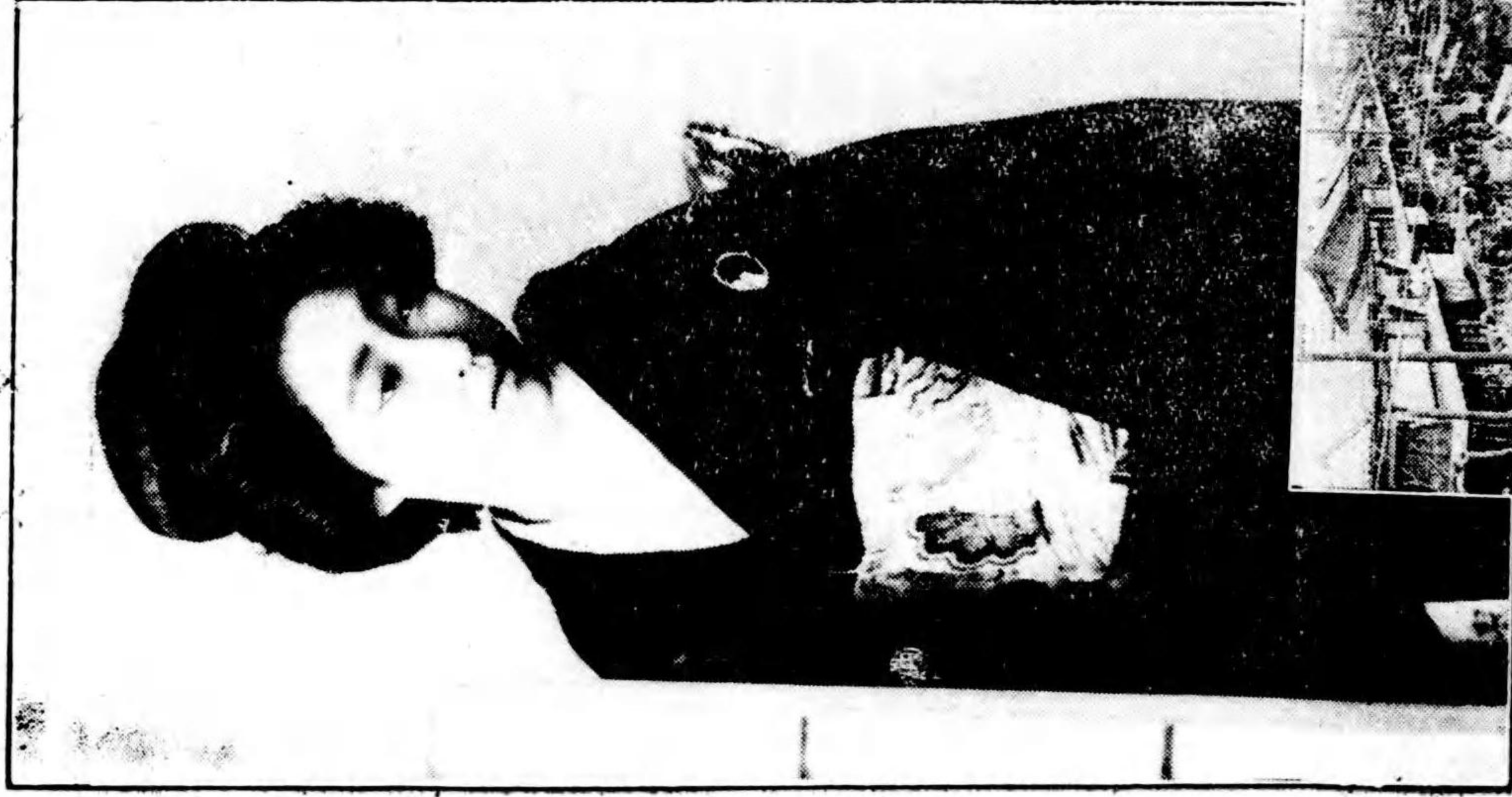
所 役 市 鴻 新 (右てつ向)
署 察 警 鴻 新 (左てつ向)
(む望な校學等高鴻新リよ路小谷杵)

〔組 人 五 袖 振〕



子一家上水、榮初中初りよ右) 人美町古
(初小家崎大、代千八小壽代千、郎五島月新

□ 新潟美人の風俗 □ — 中年増藝妓のお座敷姿 —



古町新市
朝市
の
は
踏
下
る
る
の
圖
秀
小
島



◇追分◇

三味線 (右) 鴨會津家しげ
 (左) 新月島たか
 (右より)

梅澤千代
 新月島五郎
 都家福龍
 鴨會津家たい
 新玉家ちやら
 秀本おもちや
 大崎家小初

◇盆踊◇

(三味線) 鴨會津家しげ
 (樽) 新月島たか
 (笛) 都家福龍
 (右より)

鴨會津家たい
 大崎家小初
 梅澤千代
 新月島五郎
 秀本おもちや
 柏家梅香
 新玉家ちやら



◇たけさ◇

(三味線) 今町家榮子
 (太鼓) 新玉ちやら
 (笛) 桂家玉龍
 (右より)

新月島五郎
 千代壽小八千代
 初中初榮
 水上家一子
 大崎家小初



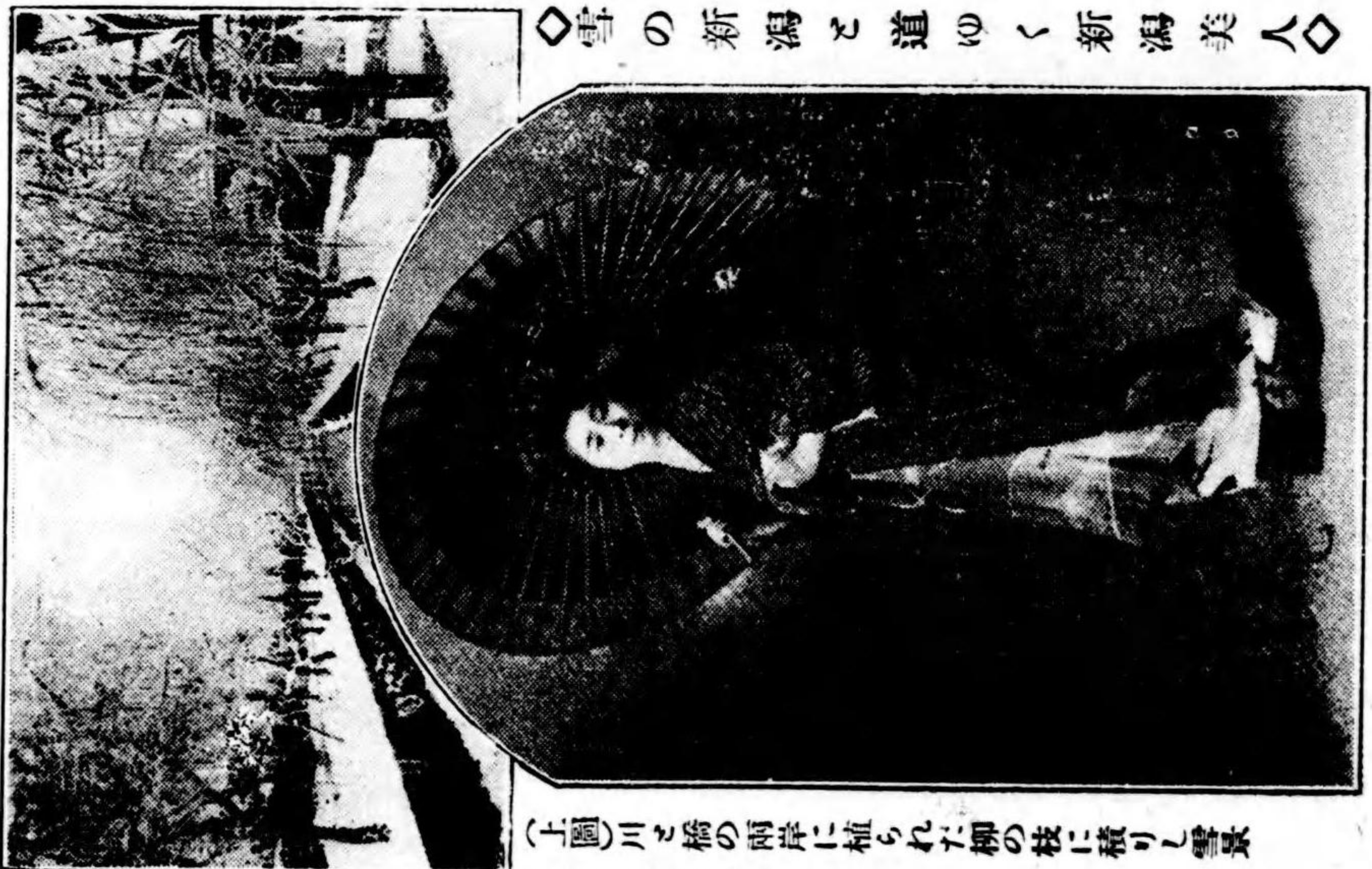
◇相馬甚句◇

(三味線)
 (右) 桂家玉龍
 (左) 今町家榮子
 (右より)

初中初榮
 千代壽小八千代
 新月島五郎
 水上家一子
 大崎家小初



◇雪の新潟と道ゆく新潟美人◇



(上圖)川と橋の兩岸に植られた柳の枝に積りし雪景
(下圖)新葉ふみ(古町)

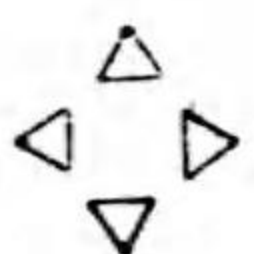
◎踊舞の妓藝町古◎
ーノ(まーりざきよ)



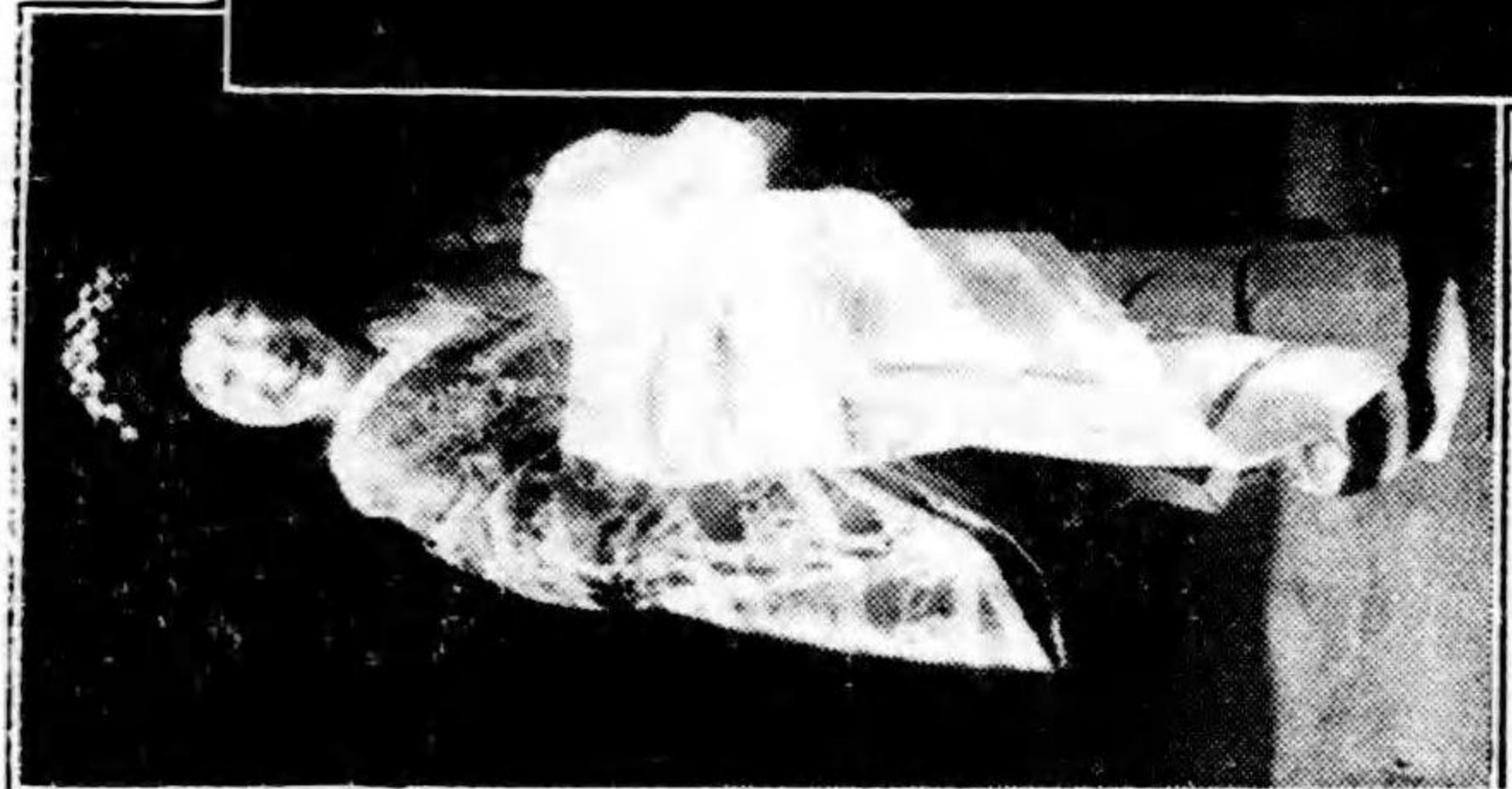
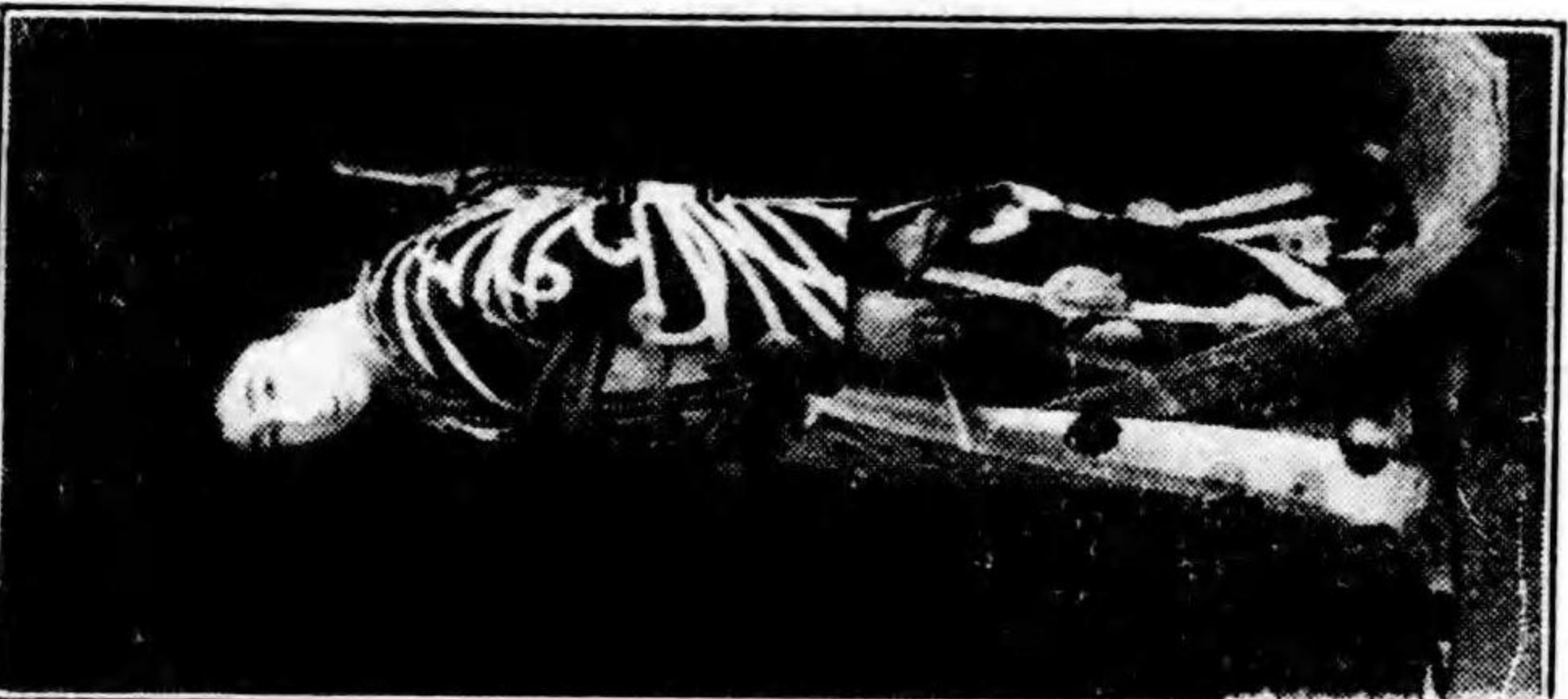
梅澤は舞踊に秀れた藝妓が揃ふてゐるが
中にも此三人は評判のものである。

(上)梅澤萬里子(中)萬里子の大名(右)千代の太郎冠者(左)

(下圖)
梅澤
千代

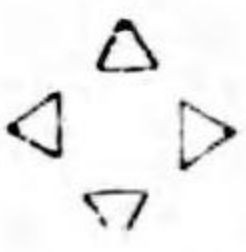


同「Y」の「?」244
冊 報 一 一 報 2



(ウモスリルモ)ノニ

◎早稲田の振舞



□本紙は明治卅五年の創刊にして着實なる報道嚴正なる批判を下し縣政の發達新潟市政の改善を以て目的とし民衆援後の機關なり。

新潟友

【刊創年五卅治明】

錢七金部一

◇發行所◇

新潟市東市仲通二番町

新 潟 公 友 社

電 話 一 六 六 六 番

□特に本市傾斜卷の消息は恐らく本紙を措て正確にして敏活風潤滑稽なるは他に在るを聞かず。



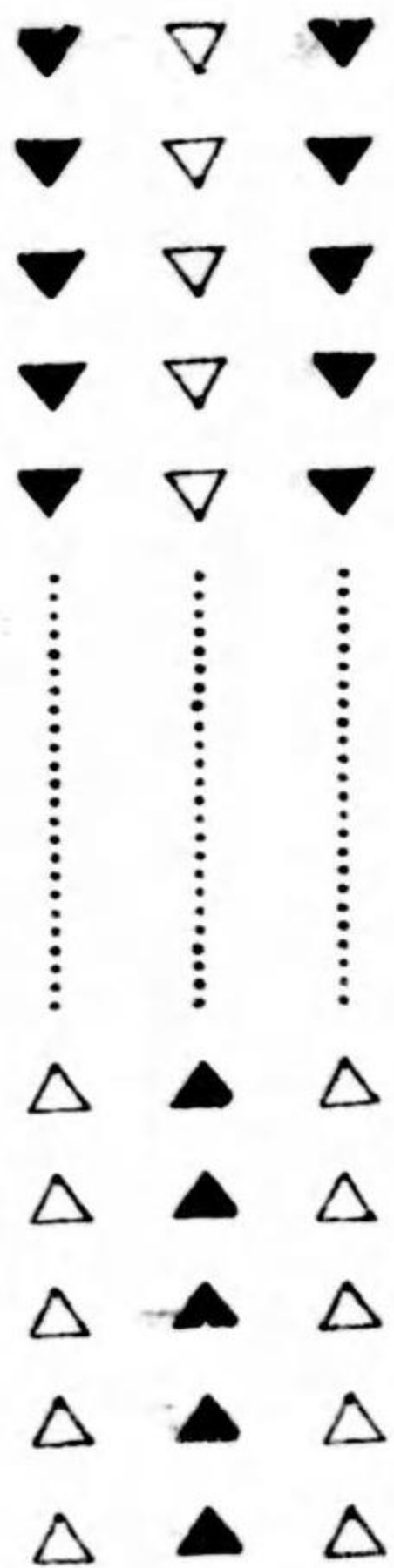
割烹

調理吟味

新海市東堀通八番町東新道

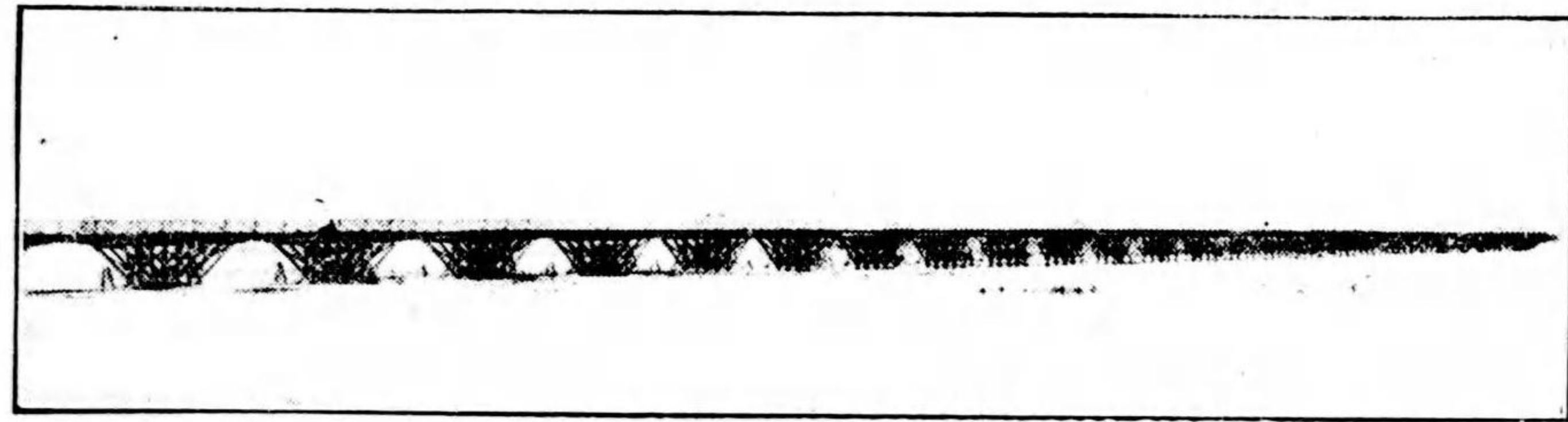
瓢亭

電話 二二七番



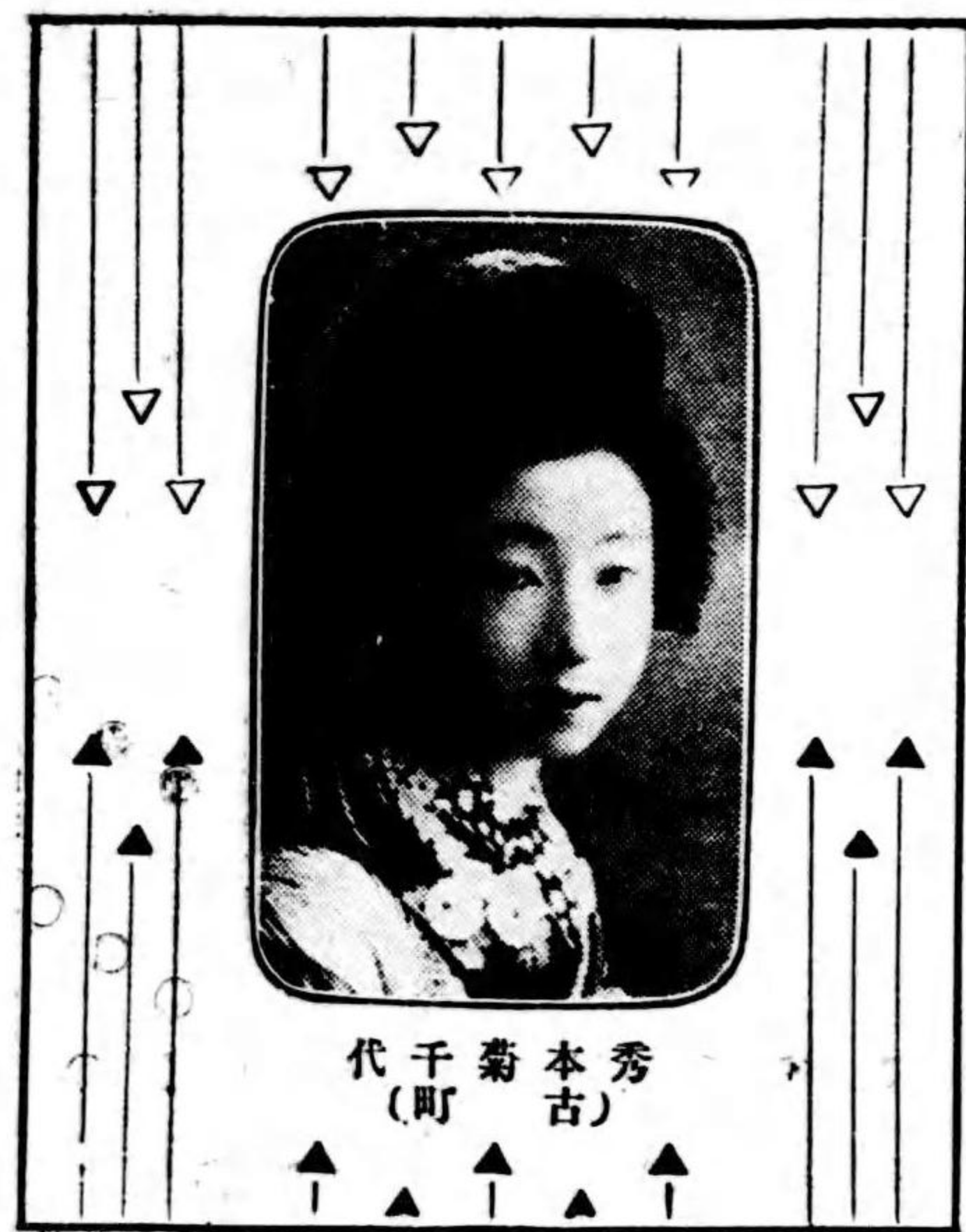


新瀨名所の一万代橋



—(延長四百三十三間)—

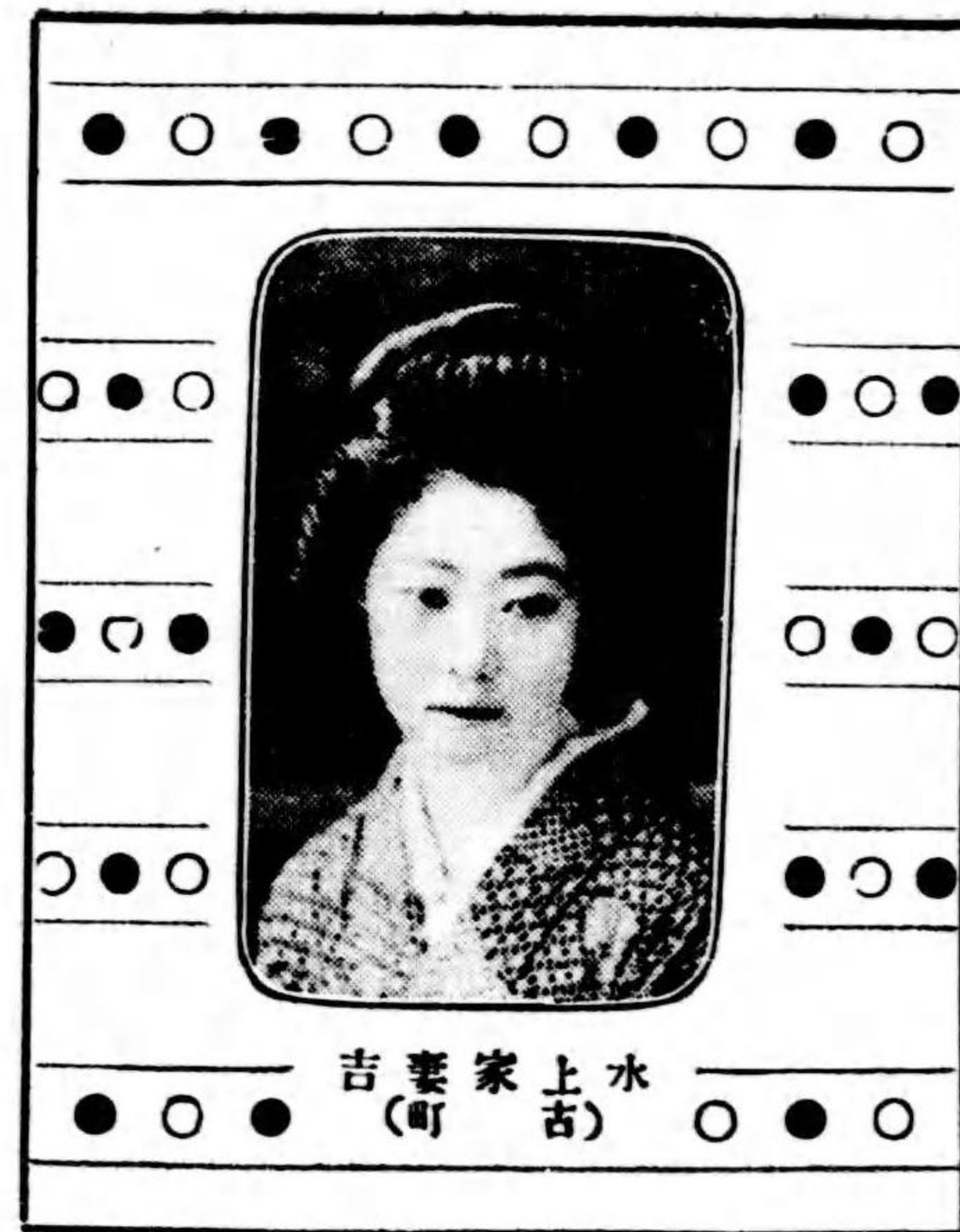
古町美人



り ぶ 夫 太 義

(左てつ向) つみ家野幾
(右てつ向) なは家野幾新







子まは 家井賀
(町 古)



子一家上水
(町 古)



んも小 家木玉
(町 古)



子櫻徳木
(町 古)



子ちみ 家阪大
(町 古)



字高 家廻桐
(町 古)



彌 咲 家川小
(町 古)



壽 玉 枝 々 梅
(町 古)



香君しよ春
(町古)



子賀千 家田高
(町古)



たるか 家津唐
(町古)



香梅家柏
(町古)



子百八家島三辰
(町古)

常小家村小
(町古)

郎太榮家川皆新
(町古)

丸若家川皆
(町古)



歌一本太耶
(町古)



新堀家小糸
(町古)



大山家胜利
(町古)



能登家貞次
(町古)

春 一 本 秀
(町 古)

光 小 家 々 歌
(町 古)

子 づ し 家 川 皆
(町 古)

彌 錦 家 曾 木
(町 古)



香惠壽 家根白
(町 古)



子兔家廻月
(町 古)



美勝家島寺
(町 古)



次吉家澤相
(町 古)





牛崎家豐子
(町古)



新北靜代
(町古)



新鹿島家卜勝
(町古)



鴨會津家多惠子
(町古)

秀本おるか
(町古)

小村家小三
(町古)

新川皆家子
(町古)

木曾家一丸
(町古)



子 桃 家 都
(町 古)



丸 友 家 中 越
(町 古)



子 幸 家 櫻 初
(町 古)



や ち も お 本 秀
(町 古)



松君家壽滿
(町古)



るは間風
(町古)



春代子家中越
(町古)



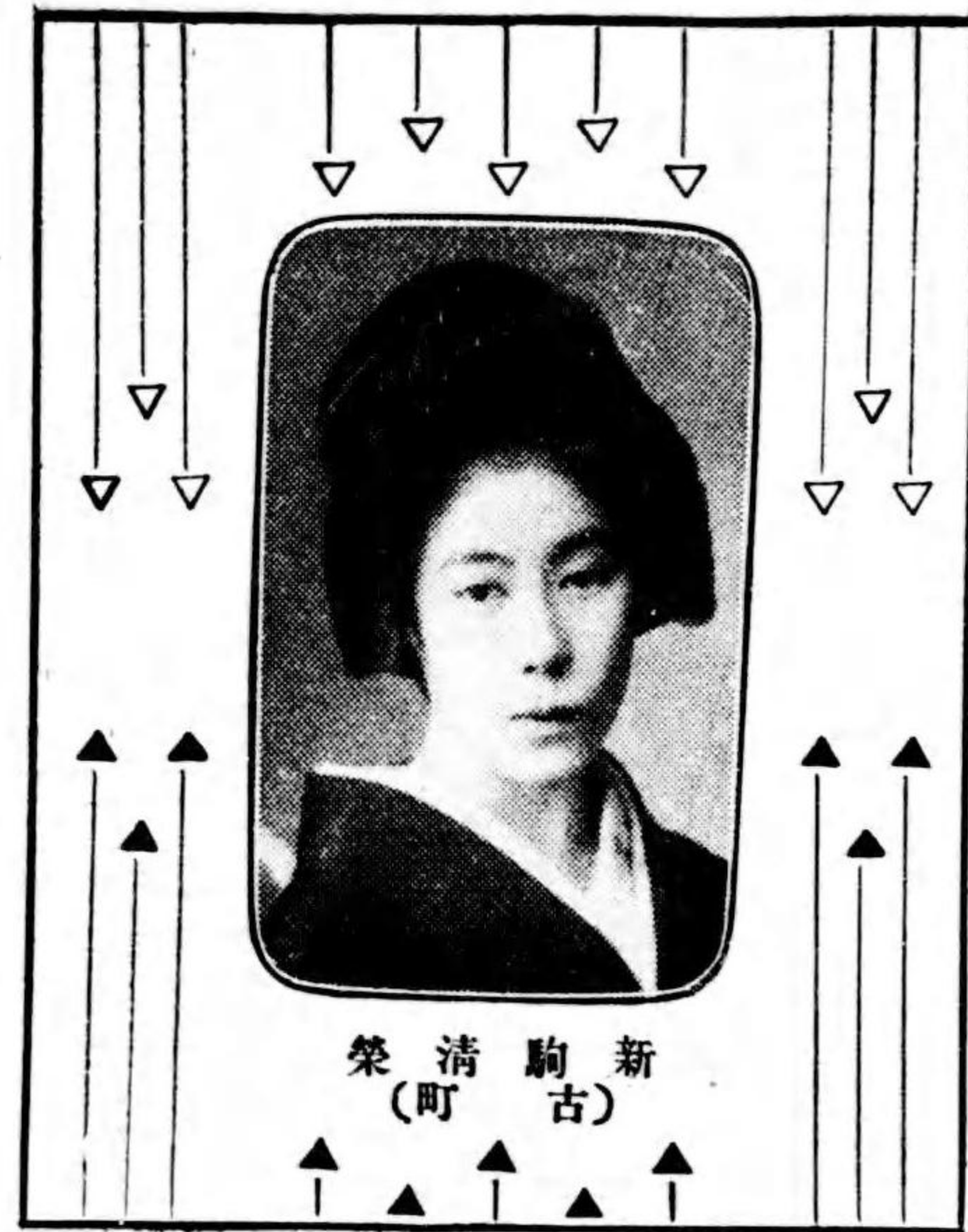
龍玉家桂
(町古)

子律家田富
(町古)

治寶家島三新
(町古)

子咲島鹿新
(町古)

めなか家島三
(町古)





子若 家島三新
(町 古)



代 春 家 村 中
(町 古)



代 千 梅 本 秀
(町 古)



● 耶 太 梅 本 歌 ●
(町 古)

伊勢家菊榮
(町古)

附島家節子
(町古)

皆茂登
(町古)
めかお

梅三条幾子
(町古)

有明みつ字
(町古)

中村家米香
(町古)

木曾家三代
(町古)

瓢家小雪
(町古)





梅ヶ枝 香
(町 占)



富田家 常香
(町 占)



新村上家 奴
(町 古)



吉田家 時子
(町 古)



榮津嘉 家田太
(町 古)



勇玉冢上水
(町 古)



子蘭家條三
(町 古)



萬小 家津言鴨
(町 古)



小 林 家 小 吉
しよ (町)



新 月 島 太 郎
(町 古)



桂 家 喜 多 入
(町 古)



柏 家 さ ね
(町 古)



平林家
平古
リジ分
(町)



千代田家
千古
壽菊
(町)



新越中家
新古
巴家
(町)



三島家
三古
菊太郎
(町)

子夜小 家條三
(町 古)

榮つむ 家葉公
(町 古)

多豆家松村
(町 古)

丸秀川本
(町 古)



次柳家田平
(町古)



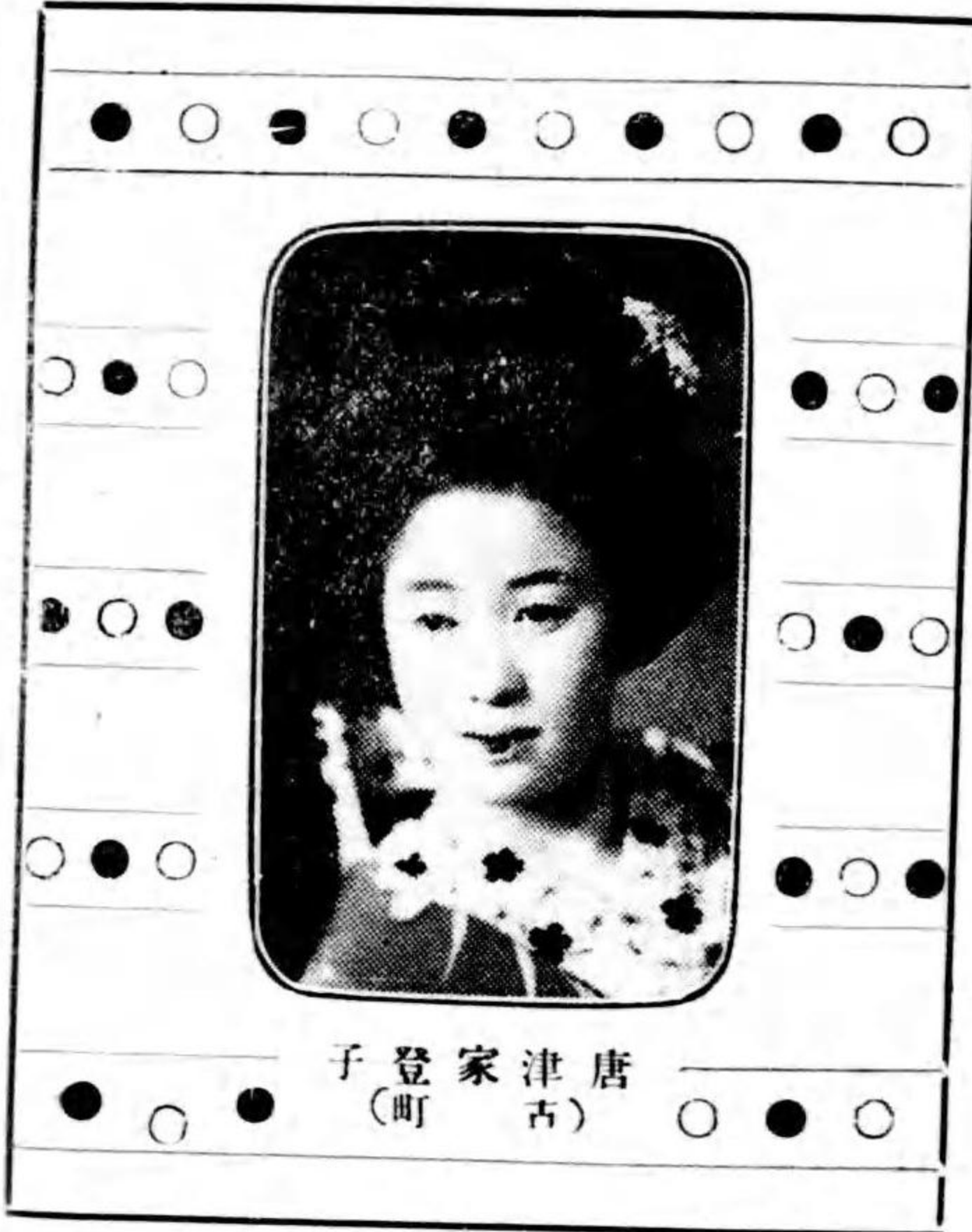
丸菊徳木
(町古)



子友島月新
(町古)



郎五島月新
(町古)

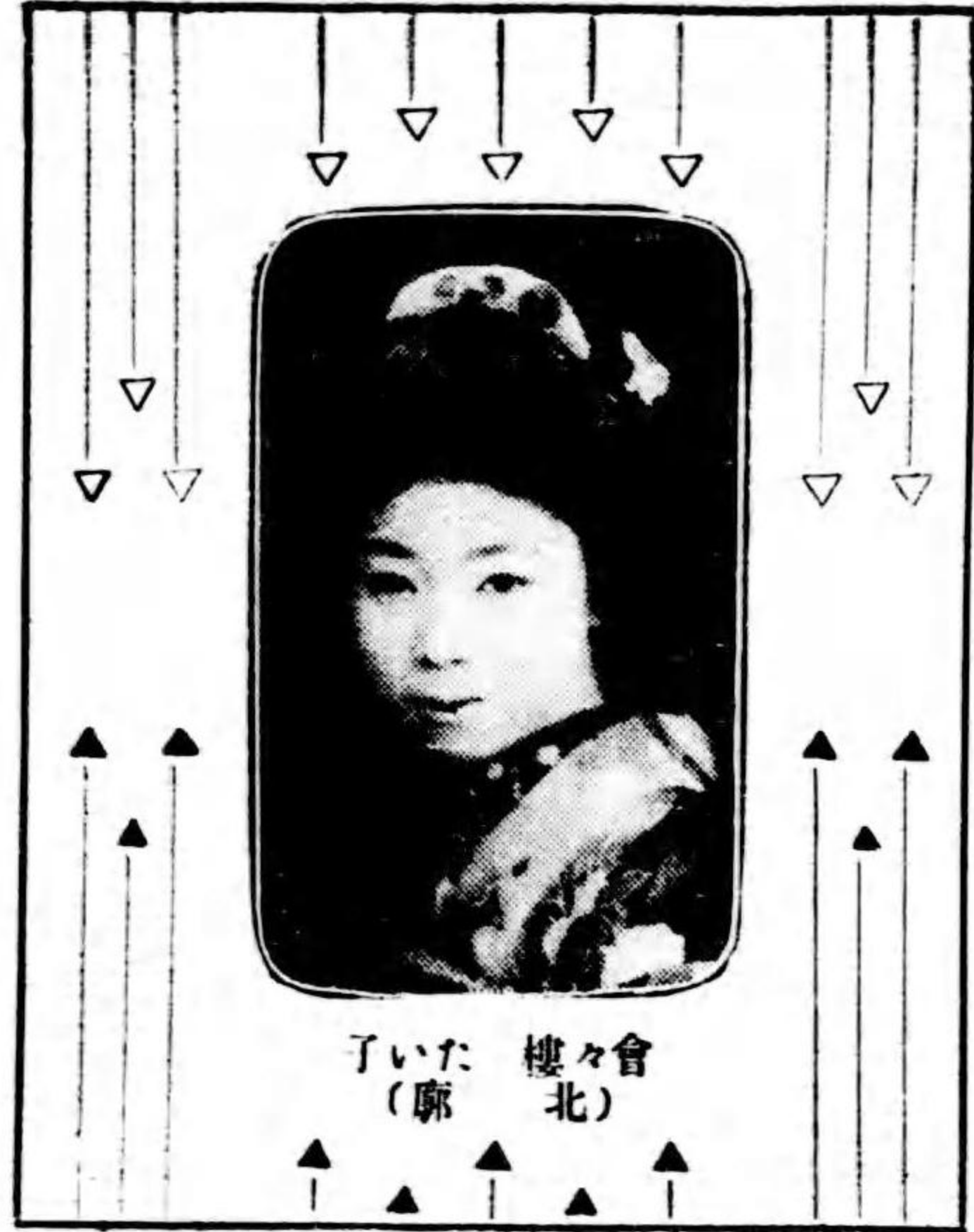




松 蔦 樓 々 會
(廓 北)



れ か 亭 樂 喜
(廓 北)



子いて家川戸新
(廓 北)

すみ樓澤金
(廓 北)

江春館野幾
(廓 北)

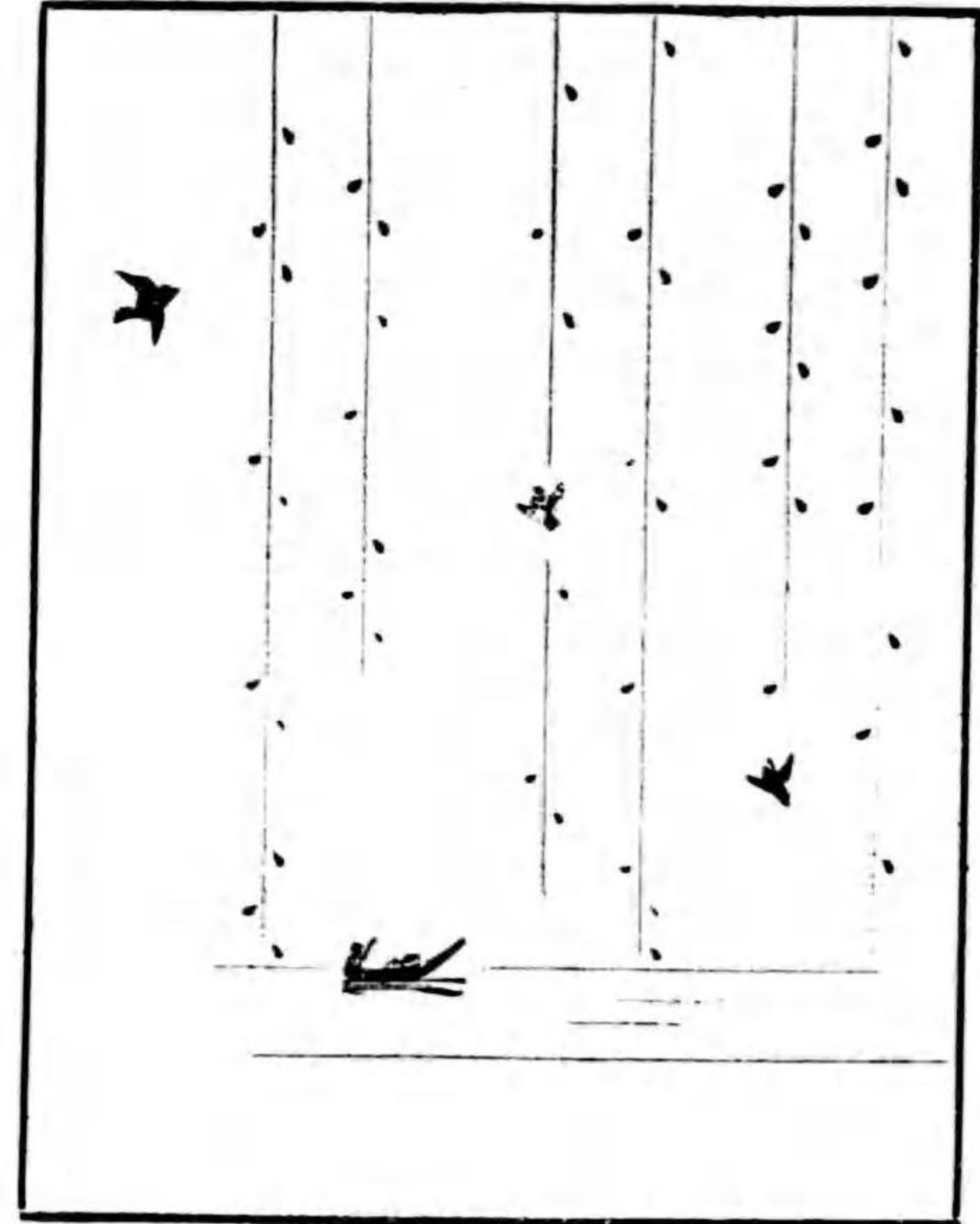
香代千家川戸新
(廓 北)



沼垂美人



江
東





綿 德 樓 松 枝
(垂 沼)



東 京 亭 榮 龍
(垂 沼)



仲 柳 小 八
(垂 沼)



鶴 善 樓 八 千 代
(垂 沼)

序

我が新潟市を説き、案内
せんとして新たに編纂
した本書は努めて在來
の案内記の内容と体裁
を避け説明的に記事の
選擇を行ひ遠來の視察
遊覽者に便せんとした
のである。主意は新潟市
政の概説と商工業及教
育の現狀等に重きを置
いたのである。

大正十一年夏

北汀漁郎



つか楼善鶴
(垂沼)



なほ月松
(垂沼)

新潟遊覽案内

我が新潟は何にを

誇る可きか？



…築港の完成を俟つて…
…遊覽設備を施す…
新潟市長 柴崎雪次郎

我新潟市は遠來の人へ紹介す可き何ものも有してゐないのは甚だ遺憾である。工産品としては漆器を誇らんとするも同じ漆器の内に竹塗は實用的ではあるが一見した感じは却つて岩船郡村上町の堆朱堆黒の如く彫刻の美や品質堅牢に非ず未だ工産品の名物として完全と稱するを得ない。又名所舊蹟又は遊覽地として天下に誇る可きものも有してゐない。故に遠來の賓客を迎ふる場合は、賓客をして我新潟市に二泊の滯留を爲さしめんとする事は頗る困難である。遊覽地として案内す可きものを有しないからである。併し現在の新潟は或は以上の如きものであるかも知れないが、我新潟市の前途たるや實に漾々たるものである。即ち將來に嚮望する處は新潟築港の完成であつて港灣の修築成り港内の諸設備完成の曉は、近海航路は勿論滿鮮及浦鹽との交通貿易港として本邦重要な港灣たる事を得るであらうと信ずる。自分一個の考察とすれば港内は埋立地を作るより寧ろ港内を廣くし一定の

深度を保たしめ相當巨船の活動自在ならしむる必要がある。之を實行せんとするも大河津分水工事完成の後であらねば成らぬが要するに我新潟市は現在より未來に於て期待すべきものが多いのである。(談)

—大正十一年五月二日新潟公友轉載—

衛生より觀た

新潟の氣候と海水浴場

新潟市立北濱病院長 山田直治
新潟市技師

新潟を知らぬ人は直ちに雪國を聯想して寒氣熾烈の都會といふ感を興へるらしいが越後の山間部なら兎も角新潟市は未知の人士が想像される様な所ではなく假りに斯くの如き誤解を以てしてゐられるとすれば新潟市の爲めに甚だ遺憾である。衛生より觀た新潟の氣候風土は決して悪い方ではないと思ふ。殊に冬季の濕潤した空氣と夏季六月頃より九月頃までの新潟で云ふ「しも風」(北方の風)は日本海の洋上を撫て新潟市街を吹くのであるが此風は新鮮であり清潔な風であつて涼味眞に掬すべき新潟特有の風である。新潟に杖を曳く人士が衛生上の見地から言ふならば實に理想的な氣候の場合が多い。次に衛生的見地から新潟の海水浴場を評するならば恐らく北陸第一であらうと思ふ。唯風致上及び設備の上から言ひば雜風景であり、人工的風致や設

…(二)…

備に乏しい事が遺憾であるが新潟市は將來出來得る限り人工美や設備を施すべきである。海水に親しむ人、日本海の汀を逍遙する人を問はず凡て海に親しむ人を多く作る方法を講ずる事が即ち衛生上頗る有益の事である。將來は松林を抜けポプラの林を潜つて海岸に達し得る様にしたいものである。其曉は獨り衛生上のみでなく遊覽に、見物に我新潟に接し海濱に臨まんとする人は日を逐ふて多きを加へる事になるであらう。(談)

教育の現状と

社會事業

新潟市社會教育主事 吉成新太郎

…(三)…



教育

戦後に於ける當市の教育事業が、戦後に於て俄然勃興の氣運を促し、一新時期を劃せるの觀がある。即ち新潟高等學校の新設醫學専門學校の大學昇格を始めとして、中學校の改築に伴ふ規模の擴張、高等女學校の高等科並置、學級の増加、市立實科高等女學校の設置、入舟、萬代、二葉三小學校の増設、十補習學校並に同研究科の設置等茲數年の間に實に長大足の進歩を成したと言ふ事が出来る。更に之を社會教育の方面から見ても十個青年團の勃興聯合青年會の設置四個處女會並に聯合處女會の設立、青年の自發

的文化運動とも見るべき夜間中學會の設立、修養團や思想研究會の新活動等殆んど數ふること暇の無い程で有る。又社會事業としても三個の私立保育園の設立愛國婦人會の妊産婦保護、警察署に於ける人事相談所の設立等を始めとして漸次勃興の氣運に向つて居る。

而し一面から考へれば、新潟市の教育も社會事業も、到底充分とは言ひがたい。今後一層其の内容の充實を期すると共に所謂大新潟市の建設に伴ふて更に規模を大にし、徹底的施設をなさなければならぬのである。



新潟市の概説

……(發生と現今)……

○新潟の沿革 ○概觀的に新潟を紹介し、遠來の旅客を案内せんとするには先以つて新潟市の過去を記述するのが至當であらう。併し乍ら新潟市の地理的沿革を説く可く餘りに信據すべき記録文書に乏しい事を甚だ遺憾とする。唯、地形の發生は信濃、阿賀の二川が交會する處に新潟を生み、彌彦山脈の沙嘴によつて白山島の存在發達し來つて港灣の形成をなしたことは信ず可きであらう。上杉景勝が天正九年より同十一年まで三ヶ年を要して當時白山島に在りて新潟城に據りし新發田因幡之守の一族を攻亡したと傳へてある以上は既に此時代には新潟市が相當

の都市的形體を成してゐた事が認められる。堀越後之守より松平上總之守(慶長十五年)、長岡の城主堀丹後之守(元和二年)、牧野駿河之守(元和四年)等の守領地と變轉して爾後二百餘年を送り天保十四年に至つて幕府の直領となり、奉行によつて統治されたが慶應三年に起つた維新の兵亂に幕府直屬の奉行は同四年(明治元年)に引揚げ、同年八月民政局が配置された。數ヶ月にして民政局は新潟裁判所と改稱され、更に新潟府となり、明治廿二年三月市制が布かれたのである。

○位置 ○新潟市の位置は北緯卅七度五分五厘東經百卅九度三厘で東方山ノ下は北緯卅七度五分八厘、東經百卅九度五厘、西方關屋は北緯卅七度五分五厘、東經百卅九度三厘、南方流作場新田は北緯卅七度五分六厘、東經百卅九度三厘北方船見町は北緯卅七度五分八厘、東經百卅九度四厘に位置してゐる。

○面積と廣袤 ○面積は一方里三分三厘三毛で廣袤は極東北ノ下極西關屋二里八丁、極南流作場新田極北船見町卅一町である。

○戸數と人口 ○大正十年末日調査に由る新潟市の戸數は一萬八千七百四十五戸、人口十萬三千九百五十八人であるが尙ほ年々増加の傾向を示しつつある。

○市の豫算 ○新潟市の經常臨時總豫算額は毎年百萬圓を超わつゝあるも昨年度は金九十一萬

八千三百三十圓にして外に水道其他四五の特別會計を有し、將來築港完成の際は遊覽的方面の設備は勿論、公會堂、運動場、公園等の諸設備を要すべく、年々市の豫算上に於ても増額は脱れ難き事は茲に説述する迄もない。

回衛生設備回 衛生上最も看過し能はぬは飲料水の良否である。我が新潟市は多額の市債を起し國庫の補助を仰ぎて上水道の敷設を決行し今日の衛生状態を保つに至つたのである。故に來市の人をして決して憂慮せしめないものである。其他衛生設備としては市に衛生巡視數名を置き各般の衛生上の改善を企てゐる。病院としては新潟醫科大學附屬病院を初め長谷川病院、青山腦病院、布川病院、竹山病院、石塚齒科病院、前田婦人科病院等を有し開業醫亦市中に散在してゐる。

回交通と賃金回 往時新潟市の交通は海路、河川を唯一の機關となしつゝありしが、現在の省線信越線の前身たる北越鐵道の開通以來交通の發達著しく進歩し現在に於ては市中四個所の停車場を有してゐる。即ち省線新潟停車場、沼垂停車場、越後鐵道線白山停車場、關屋停車場である。

海路は近海航路として日々佐渡行きの新潟汽船を初め酒田、伏木、敦賀等の定期船あり、浦鹽北海道等の遠海航路船あり、河川に在りては安進丸、白根丸の二會社は長岡、白根、燕、葛塚

等へ日々往復しつゝある。陸路の交通としては市中人力車六百七十三臺が營業し之等の賃金は一人乗一臺十町迄金廿錢以上一町を増す毎に一錢五厘の割である。自動車は貸自動車として新潟自動車商會(礎町砦谷小路通り)山口自動車店(西堀通六番町)北國自動車商會(同町)あり、一臺五人乗卅分時間金二圓五十錢以上三十分を増す毎に一圓宛を増す事になつてゐる。市中は新潟市街自動車株式會社は一定線路を一日數十回往復し一區間五錢を以て一般交通の便を圖つてゐる。近郷北蒲原郡新發田町、西蒲原郡巻町同黒埼村大野町、中蒲原郡白根町への往復もある。

回新潟の氣候回 新潟は直覺的に「雪」を聯想されてゐるが海岸に位置するため堆雪なく、降雪しても海面より吹き送る風のために飛散し本縣山間部の如き積雪を見ることが出来ないから外來者の想像とは全く異つた事實を有してゐる。四季の氣候は本縣下山間部、沿海部とによつて多少相違してゐるが氣壓は冬期間一般に高く夏期は低い、平均最高七百六十二耗内外にて最低との差は約七耗である。氣温は八月中旬最も高度を表はし三十度以上に達し、最低は一月上旬より氷點下に降るを常としてゐる。降雪時節は十一月下旬より四月上旬に亘り平均六十六日間とされてゐる。夏期に於ける酷暑は概ね六月下旬より九月下旬であるが乾燥の變化は春秋期が最も乾燥し、夏期は濕潤し、雨量は冬期間最も

多く、夏期は少くないが全國中最多の部になつてゐる。風は冬夏は最大とされ、春期は之れに次ぎ、秋期は最小であるが概ね西風及び西北西風あり、次ぎは北西風で秋冬の候には三米突以上になる事がある。快晴の季節は八月最も長く一、二月は好晴の日に乏しい。



本市教育機關

回學校數回 本市の各學校名及學校數は次の如くで市兒童就學數は一萬六千三百五十名である

市立學校

校名	所在地
新潟尋常高等小學校	東大畑
沼垂尋常高等小學校	沼垂鏡ヶ岡
大畑尋常小學校	東大畑
豊照尋常小學校	見方町
湊尋常小學校	古町十三
入舟尋常高等小學校	稻荷町
萬代尋常小學校	沼垂町
二葉尋常高等小學校	西大畑町
鏡淵尋常小學校	白山浦
礎尋常小學校	礎町三
關屋尋常小學校	關屋
山ノ下尋常小學校	山ノ下字西吉川
沼垂裁縫專修學校	沼垂鏡ヶ岡
新潟商工補習學校	東大畑一

山ノ下工業補習學校 沼垂山ノ下
 鏡淵商業補習學校 白山浦
 大畑商業補習學校 大畑通
 礎女子裁縫補習學校 礎町
 湊女子裁縫補習學校 古町十三
 沼垂女子裁縫補習學校 沼垂
 沼垂商工補習學校 沼垂鏡ヶ岡
 入舟工業補習學校 稻荷町
 豊照工業補習學校 豊照町
 關屋工業補習學校 關屋
 西堀幼稚園 西堀
 鏡淵幼稚園 西堀四

◆私立學校◆

新潟女子工藝學校 西堀通
 北辰學館 東堀港
 新潟靜修學校 東堀港
 新潟產婆學校 西堀十

外に夜間中學講習會等がある。

◆縣立學校◆

新潟師範學校 旭町二
 同附屬小學校 同
 新潟中學校 關屋
 新潟商業學校 白山浦
 新潟高等女學校 學校町二
 新潟盲學校 西堀通三
 ◆官立學校◆
 新潟高等學校 旭町
 新潟醫科大學校 旭町通一



商工業の現況

……… 主要物産製産高 ……
……… 諸機關及商習慣 ……

◇商工業地◇ 交通完備に伴ふて商工業の振興を看るを得るは強ち獨り我が新潟市のみではないが我が新潟市の商工業は近年特に發展擴張されて來た。東新潟即ち沼垂町を工業地とし、西新潟を商業地として發達して行く事も自然の趨勢である。

◇商習慣◇ 新潟市の商習慣中に注目すべきは掛賣制度の行はれてゐる事で、去月中の買入代金は翌月末日まで支拂を例とし其間各支拂日の一定を缺き近時屢々一定の議起るも今日未だ實現を見ないのである。又呉服商中普通尺物は鯨尺を用ひず凡て曲尺を以て賣買してゐる。

◇金融機關◇ 市内に於ける主なる銀行は左の如くである。

銀行名	所在地
日本銀行新潟支店	上大川前通八番町
株式會社第四銀行	東堀前通七番町
株式會社新潟銀行	上大川前通七番町
株式會社新潟縣農工銀行	西堀 通四番町
株式會社新潟農商銀行	本町 通十番町
株式會社新潟貯蓄銀行	本町 通七番町
長岡銀行新潟支店	古町 通七番町
株式會社六十九銀行新潟支店	上大川前通八番町
株式會社豐國銀行新潟支店	本町 通九番町

共榮貯金銀行新潟代理店 本町 通九番町
 新潟合同貯蓄銀行 上大川前通九番町
 不動貯金銀行新潟代理店 本町 通七番町
 帝國實業貯蓄銀行新潟代理店 古町 通五番町

◇取引所と交換所◇ 本市には株式會社新潟米穀株式取引所(上大川前通十番町)の外株式取引所專門として新潟證券交換所(本町通十番町)がある。

◇重要工産品◇ 市の重要工産品としては漆器、佛壇、襖、建具、箆筒、疊、履物、足袋、傘、織物、燐寸等であるが大正九年中の製産高を示せば次の如くである。

漆器	三三一、三七五	足袋	七〇、〇〇
疊	三二六、四〇〇	履物	一八〇、〇〇
建具	一七二、〇〇	燐寸	一〇〇、一五二
傘	三二二、〇〇	織物	二四五、三一〇
箆筒	四三、六〇八	佛壇	一〇〇、〇〇
肥料	九五七、八七五	簀屏風	二三一、六〇〇
輕油	二、七〇二、四一七	重油	五一、〇〇〇
鐵油	三、一一三、八七一	燈油	四、一八〇
硫酸	一、〇七八、三二五	ピッチ	一五二、二五〇

…(十)…

◇會社工場組合◇ 市内の株式會社、合名會社、合資會社、法人組合、其他の組合等の數を掲記すれば

株式會社	五五	合資會社	二二
合名會社	一一	組合	六〇
同業組合	三	工場	八一

…(十)…

◇商品陳列所◇ 本縣の經營にして本縣商工業の指導機關として最も重要なものである。學校町一番町に在り本縣製産品を陳列し、内外國品の參考資料を蒐め産業獎勵に努めつゝあり。館長縣技師長谷川鋼之允氏、圖案意匠は縣技手藤卷清次郎氏擔任しつゝあり。

◇商業會議所◇ 同所は上大川前通七番町に在り、明治廿九年十二月法令に依り創設され専ら本市商工業の發展振興に努めつゝあるが現在會頭は鈴木久藏氏である。

◇商店研究會◇ 市内商店中最も信用厚く且つ恒に商店經營上研究されつゝある店舗五十名を以て組織し店頭裝飾競技會、講演會、賣出し、店員慰安等の活動事項を擧げ近來漸く市人の重視する處となり、將來商業上最も必要な機關であらう。現在會長は會津友次郎氏にして事務所は新潟市役所に在り。

◇勸商場と朝市場◇ 古町通六番町に新潟勸商場、地球館の二勸商場あり。毎朝正午まで本町通五番町より六番町に果實野菜の朝市場が開設され、市民日常必要品を供給してゐる。



遊覽の地と旅館案内

……(名所舊蹟)……
……(宿泊料金)……

□旅館宿泊料□ 市中の旅館は一泊の宿泊料を四級に分ち各級特等上中等下等になつてゐる

	特等	上等	中等	下等
一級	金七圓	金六圓	金四圓	金三圓
二級	金六圓	金五圓	金三圓	金二圓
三級	金五圓	金四圓	金三圓	金二圓
四級	金三圓	金二圓	金一圓	金五錢
中食料	中食料は各級各等共一泊料の凡て半額。			

旅館名	所在地	新潟 驛	白山 驛
篠田旅館	礎町一	一	一七
小甚旅館	上大川前通五	一四	一五
室長旅館	東堀前通六	一三	一四
大野屋旅館	古町通六	一五	一三
同別館	古町通五	一六	一二
櫛清旅館	古町通六	一五	一三
篠田支店	新潟驛前	一	二五
菊地屋旅館	西堀通四	一六	一一
西山旅館	學校町一	二四	一四
榮屋旅館	西堀通五	一五	一二
俵屋旅館	西堀通四	一六	一一
大阪屋旅館	醫學校町	二二	一七
近江屋旅館	下大川前二	九	二〇

……(七)……

■名所舊蹟■ 全市の名所舊蹟を一々擧ぐる事は不可能であるが茲に主なる遊覽の地、參拜すべき所、視察すべきもの等を記載する。
■白山公園■ 市營の公園にして郷社白山神社を祀り、園庭には山あり瓢池あり、明治天皇御野

……(七)……

立所、昭忠碑、住吉神社神輿庫等あり同所は往昔千本松原と稱せし所にして現在は信濃川に沿わ維新の戦蹟あり。

■招魂社■ 常盤ヶ岡に在り維新戦亂の際討死の忠臣を葬りし墓所にして日清戦役の戦利品として砲二門あり。眺望絶佳の丘陵なり。

■日和山■ 入津の船を見、天候を觀測したるも今は名物として遺るのみ。丘陵に住吉神社を祀る。新潟名所の一たり。

■海濱■ 新潟海岸一帯は岩石なく、海水清澄海草なく、遠淺にて干満の度緩く天恵の海水浴場なり。外來海水浴者年々増加す。

■港口■ 港口の突堤は本市の一美觀にして一日參觀の要あり。

■鐵工場■ 株式會社新潟鐵工所新潟工場は本市工業界の代表なり。入舟町及對岸山ノ下に在り。

■製油所■ 製油所としては沼垂町には日本右油製油所は規模大にして本邦有数の設備なり。其他關屋等に大小製油所あり。

■觀戀上人舊蹟■ 對岸島屋野村御滯留の關係上本市北山淨光寺「本派」に寶物數點あり。

■蓮如上人舊蹟■ 西堀通九番町長崎山眞宗寺は舊蹟として名あり。

■竹内式部碑■ 本市出身の勤王家竹内式部先生の墓所は本覺寺にして碑は白山公園及本町十四、地藏庵に在り。



地方色としての 新潟の俗謡

哀調と野調

◆哀調の追分◆ 新潟の地に足跡を印し、新潟の情調に觸れんとする人は必ず新潟追分と盆唄を玩賞しなければ語るに足らぬ。殊に追分は松前追分と異り新潟には個性的新潟タイプの追分節が獨立してゐる。哀調の流れる處に情趣掬すべきものあり、感傷的リズムの中に捨て難い風情がある。港の岸に明滅する灯を望んで佇立する時、吹く風に和して送られる追分の節調は慥かに港の町にふさわしいのである。歌詞の二三を摘記して見るが之に振の袂の舞姫が打ち寄する波の如く緩やかに、靜かに立舞ふ情景は新潟ならではの見られぬ所である。

○おしよら高島及びもないが

せめて唄捨磯谷まで。

○一夜一夜の情けの露に

思はぬ花さくかきつばた。

○櫓も櫓も波にさられて只呆然と

ここへせりつく島もない。

○山せ風、別れの風だぞ承知はすれど

いつまた逢ふやら逢はぬやら。

○こよひ一と夜はごんすの布團
あすは出船の浪枕。

◆野趣の盆唄◆ 追分と共に新潟のローカルカラア(地方色)を代表する即ち新潟獨特のものである。歌詞、節調、舞踊とも野趣を帯びた處に地方色が鮮明に表はれてゐる。就中、酒樽を用ひる所謂樽砧の妙音は新潟だけの珍なるものである。樽砧の外に太鼓、笛、鉦、三味線の囃子を加へ、圓形を作る舞ひ子の手振り足振りが取圍んだ中央の囃子連中を踊り廻るのである、此の外「たけさ」と「相馬甚句」があるが之は歌詞だけを十九頁に掲げてをいた。

○しよんで来たよ、しよんで来たよ
梅干に紫蘇の葉
中の夕子までまっかに

○新潟戀しや白山様の
松が見えますホノトクこ。

○新潟砂山米ならよかる
可愛船頭衆に積ましよもの。

○盆だてガンに茄子の皮の煎炊た
餘り盛りつけられて
鼻のテツコを焼いたささ。

○押せ、押せ下の關までも
押せば港が近くなる。

○五菜畑から白山までも
後家の數々八百廿八後家。

○ア、こ宵またたまされた

◆教育會の郷土歌◆ 新潟市教育會通俗教育部に於て大正五、六兩年度に募集した郷土歌中代表作とも見るべきものを掲載する。

◆追分

「右に粟生島左に佐渡の
中をおぬしの船がゆく。

「ぬしの入舟つい待ちかたて
またものぼるよ日和山。

「投ぐる纜柳に結び
船も新潟は解けぬ縁。

◆盆歌

△新潟砂山小松をそだて
鶴をよびませう女夫づる。

△前さうしろに海川ひかへ
涼し新潟は扇形。

△梅も植ふませう櫻も咲かさう
花の新潟見にござれ。

◆都々逸

○櫻花さきや柳は煙る
新潟繪にならうたになる。

○なるか素通り新潟のまらな
見やれ柳があれ招く。

○名残をしないで新潟をうけりや
船もすれてか帆がきかぬ。



歴史的の新潟

附、現在

◇上杉氏時代◇ 新潟の傾斜巷は上杉氏時代より相當に殷賑を來たしてゐた事が認められる、寶曆年間に稍一廓を成したのが當時神明町と唱ひた現在の古町通一二番町に在つた中道七軒と稱した遊廓である。寛政頃に及んで新潟に「脱奔小路」と稱する花街の代名詞が用ひられたが之れは碓屋小路（現在の東堀前通四番町より上大川前通に通ずる小路）に現はれし遊女屋の一區劃を指したもので、此所は恰も船着場になつてゐるために、風まち潮時まつ船夫を目的とする遊女が、川入りをした船が、ダボン……と錨を投込む音を聞いて殿御のた出でをチュツと鼠鳴して待つたと傳へられてゐた。故に語音相通する處から「脱奔小路」と名づくるに至つたらしい。次いで此脱奔小路の一劃は鍛冶小路上手に在つた法音寺小路に移動し、且つ古町通五番町六番町に區域を擴げ、之を五之町六之町と呼んでゐた。更に其後西堀前通二番町及び同八番町九番町へも新たに遊女の棲む里が現はれた。

◇區劃の變轉◇ 其後當時の官は現在の毘沙門町、横七番町熊谷小路通、西堀前通五、六番町並び古町五、六番町、古町通八、九番町並び西

… 4 …

堀前通八、九番町の四ヶ所を遊廓に指定し、猶遊女は凡て公許を要する事に制度を設けた。明治十五年までは新潟に於けるこの種の女を區分して三種とされてゐた。即ち色を鬻ぐを子供衆又は女郎衆(娼妓)と稱し、單に酒席に侍して遊藝を以て客の相手のみする者を町藝者と呼び、此前後二者を兼ねた者を歌舞遊女としてゐた。然るに此年、縣は藝妓、娼妓の二種に區別して終つた。明治廿六年以後になつて娼妓の稼業する公許區域を横七番町一丁目より四丁目西受地角に至る北側一帯、西受地町、榮町一丁目西側、四ッ谷町一丁目東側以東とした。明治卅一年七月更に縣令によつて四ッ谷町一丁目、東堀前三番町、本町通十四番町、寄附町、西受地町北側、横七番町二丁目の現在區域になつたのである。藝妓のみは野暮に説くまでもなく敢て朱引地内に稼業しなければならぬと云ふ様な事はないのである。遊廓が以上の如く區域が限定されてからは藝妓の稼業する場所は古町八、九番町東堀通八、九番町、西堀前八、九番町となり、前記遊廓内にも藝妓が稼業する様になつた。要するに新潟市の花柳界と稱する場所は現在の如く新潟上藝妓組合に屬する古町藝妓と新潟藝妓組合に屬する北廓藝妓と、沼垂町が中蒲原郡より分離して新潟市に合併した爲めに沼垂藝妓の三ヶ所に存在することになつたのである。古來五、六之町と唱ひた古町の花柳界は地域頗る狹隘を極

…(5)…

堀前通八、九番町の四ヶ所を遊廓に指定し、猶遊女は凡て公許を要する事に制度を設けた。明治十五年までは新潟に於けるこの種の女を區分して三種とされてゐた。即ち色を鬻ぐを子供衆又は女郎衆(娼妓)と稱し、單に酒席に侍して遊藝を以て客の相手のみする者を町藝者と呼び、此前後二者を兼ねた者を歌舞遊女としてゐた。然るに此年、縣は藝妓、娼妓の二種に區別して終つた。明治廿六年以後になつて娼妓の稼業する公許區域を横七番町一丁目より四丁目西受地角に至る北側一帯、西受地町、榮町一丁目西側、四ッ谷町一丁目東側以東とした。明治卅一年七月更に縣令によつて四ッ谷町一丁目、東堀前三番町、本町通十四番町、寄附町、西受地町北側、横七番町二丁目の現在區域になつたのである。藝妓のみは野暮に説くまでもなく敢て朱引地内に稼業しなければならぬと云ふ様な事はないのである。遊廓が以上の如く區域が限定されてからは藝妓の稼業する場所は古町八、九番町東堀通八、九番町、西堀前八、九番町となり、前記遊廓内にも藝妓が稼業する様になつた。要するに新潟市の花柳界と稱する場所は現在の如く新潟上藝妓組合に屬する古町藝妓と新潟藝妓組合に屬する北廓藝妓と、沼垂町が中蒲原郡より分離して新潟市に合併した爲めに沼垂藝妓の三ヶ所に存在することになつたのである。古來五、六之町と唱ひた古町の花柳界は地域頗る狹隘を極

める傾きがあるので昨今は古町七番町にも伸びんとしてゐる。如上の沿革は西新潟の花柳界を説いたものであるが東新潟たる沼垂町の花柳界は、同町が新潟市より先きに土地の發生があり人家の發達を來してゐた以上は、新潟より以前に花柳界を有してゐたものであらうが茲には詳かに説明する事を略したい。沿革の大体は之を以て終り、進んで現在の花柳界を紹介する。

○ 回新潟をよめる俳句回

川々に橋々柳やなきかな。

柳あり橋あり杖のこめ所。

○ 回俗 謠回

新潟名所はさまく御座る、四方を見渡す日和山、沖の洲崎に入船出船、下町女郎衆に島女郎衆、二三小意氣で、五六全盛、坂内小路の賑やかさ、寺町通ふればコレサ兄にやそん寄りなれや。(慶應年間流行)

□新潟の川開きと住吉祭□

新潟の川開きは毎年八月廿二、三日兩晝夜信濃川中洲に舉行。經正二尺玉を初め大小數千發の煙火を打揚ぐ。兩日住吉神社の神輿市中を渡御し、市民一般に休業に等しく股賑を極む。市の年中行事の一たり。

○新潟のそん言葉回

鳩そんく、白山そんの裏そんから、お月そんが、出そんした、早よ出て見そんせ。

橋と柳の川に

ゆらめく紅燈

料理店



◇三個所の花街◇ 新潟には前章に記述した如く古町、北廓、沼垂の三ヶ所に花柳界があり、皆それぐの氣分やら趣きやらを有してゐる。何にを謂ふても古町が第一である。併し北廓は即ち遊廓氣分があり、沼垂町は格は下位に在ると申しても亦其土地特有の氣分がある。全市に於ける料理店の總數は百八十六軒で此内沼垂町だけでも四十三軒ある。本縣は單に飲食店と稱する營業を許可しない爲めに凡て此種の營業認可を受けねばならぬ。勢ひ前記料理店の總數中には國税を納める大廈高樓の料理店もあれば居酒屋式のワンカッブ屋もある。猶、縣令として料理店、待合茶屋、貸座敷、旅人宿、劇場等へ藝娼妓を招致し藝代若くは玉代を支拂ひたる場合は二圓以上の遊興に對し縣税、市税附加税を合して遊興總額の一割を徵收する事に定められてゐる。但し他の都市に行ひつゝあるが如く、料理店又は待合茶屋其他前掲の營業者は藝妓に對する祝儀を仕譯に書込んで請求するが如き慣習になつてゐない。特に嫖客より命じた場合に限り之らの營業者は初めて命せられたる一人幾何宛かの金額を立替る事になつてゐる。故に嫖

客自身帳場の手数を藉る事なく現金を興へる方が多い。以上の外の事柄に就ては縷述するにも及ぶまいが柳の植わられた所に必ず橋あり、橋の架してある所に必ず水の流れる新潟の花街、其川づらに揺らめく紅燈の情調は蓋し他の都市に需め難く新潟特有の氣分を漂はしてゐる。青柳に織込まれて咲いた櫻のひら／＼と散る徂く春の夕べ、日和下駄の音も涼しき橋上の夏、水の流れに姿を寫す月明の秋、雪がたわ／＼に枯枝の柳に積る冬のあした、何れも新潟には四季折々の趣がある。其中を紅の裳を翻して舞姫の徐ろ歩きする光景は誰やらの繪にある様である。

日本料理店

◇新潟の料理店◇ 新潟は洵に遊び易いと頼りに外來者より聞く所である。市中の數多き旗亭中双壁とするは鍋茶屋、行形亭であらう。兩者の内鍋茶屋は古町の中央、所謂絹衣紅袖の往き交ふ東新道八番町に在り、行形亭は西大畑の黄塵を避けた場所に自然の風致をとり入れてゐる。其他市中主なる料理店を舉げて見れば――。

【鍋茶屋】（東堀通八番町東新道） 全國有數の旗亭と稱され、新潟市の一名物である。高樓の簀へ立つ所より絃歌の聲は夜ごと日ごと深更まで絶わることがない。設備に於ても氣分に於ても正に舟江第一樓である。

【行形亭】（西大畑町） 天然の地形を利用して

園庭を築き、泉水の水清き所に橋を架し老松鬱蒼たる所に丘陵聳へ、四季の花莖爛漫たる中に棟を分けて客席が建てられてあるが同亭より行くこと二三丁にして海濱に達する。松風亭の別名がある。

【金子樓】（東堀通八番町東新道） 近來客足繁きは此旗亭である。格式張らぬ手輕るさが却つて嫖客に氣輕るさを與へてゐる。調理の美味も好評であり階上に浴室を設けてあるのは市中同樓を措いて他にないのである。

【あり明】（古町通九番町東新道） 調理の吟味は同店の主義で就中魚料理は市中に一戸を構へて鮮魚卸商を獨立せしめて之を兼業する關係上新鮮なるは同店の誇りとする所である。

【喜樂亭】 横門前に日本料理の本店を置き本町通十四番町に西洋料理の支店を有してゐる。本店の建物は最近新築に係る宏莊なるは北廓の誇りであらう。

【瓢亭】（東堀通八番町東新道） 鮓、鰻料理は同亭獨特のものである。

【大鳥亭】（東堀通九番町） 古來新潟の片原通りと稱せし場所に在り、近來は新潟劇場の食堂を兼營して大發展をしてゐる。

【どり國】（東堀通八番町東新道） 鳥料理を自慢としてゐるだけあつて道が其名に叛かぬ。

【水明樓】（古町通九番町西新道） 曾つて北廓の高臺にあつたのが近來發展のため古町へ轉じ

たので「天ぶら」料理が得意である。

【高山樓】（東堀通九番町東新道）信濃川の流
れに上る「八ッ目」を調理して食通を悦ばしめる
のは同樓である。

【福富亭】（古町通九番町）小ぢんまりした構
へが却つて氣の落着きがあり、板前も良いこの
評判をとつてゐる。

【三安】（上大川前通五番町）花柳界を離れ
た信濃河畔に面し春夏秋冬を通じて眺望絶佳で
ある。「萩の餅」で名高い。

【長門すし】（古町通八番町）古町目抜き
の場にあり、すし屋の内では老舗で江戸前の「す
し」は此家が最も好評である。

外に主なる料理店としては新巴屋（古町通九番
町西新道）いさみ（西堀前通八番町）ゑびす（東
堀通九番町）榮亭（横門前）一々（秣川岸）みやこ
（寄附町）があり仕出し屋等は要所々に頗る多
い。

…(10)…

【蕎麥屋】新潟の蕎麥は一流の料理店と選ぶ所
が無い程設備やら構へやら一般料理を調へる點
やらが完全してゐる。此點は他の都市とは異つ
てゐるが其内で主なるものは「山形屋」（四ッ谷
町）「藤田樓」（寄附町）「あたらし屋」（古町通六
番町）「五六亭」（古町通八番町西新道）「東京亭」
（古町通九番町）「東亭」（北他門町）「音羽屋」（本
町通十四番町）などである。但し沼垂町には此
式のものはないのである。

【沼垂町の料理店】沼垂町の日本料理店中では
鶴善樓が頭角を顯はしてゐる。其他は綿徳樓、
太平樓、小甚樓、文廼家、渡要、松月などがあ
るが自前料理で近來遽かに賣出して來たは文廼
家である。増井樓、藤田屋、金子樓、元木樓な
どは何れも仕出し料理を取寄せるので自分で庖
丁を利せるのでは無い。

西洋料理

【新潟市と西洋料理】此沿革は全國中可なり
古い歴史を有してゐる。明治七八年頃伊太利人
ミオラと呼ぶ者が曲馬團より脱して初めて市中
の人に供したのであるが爾來餘り長足の進歩を
してゐない。近年に至つて前記伊太利人ミオラ
の創設經營してゐたイタリア軒を市内某々有力
者が買収し株式組織として頗る面目を新たに
爲めに一般市中に於ける西洋料理は發達の兆が
ある。

…(11)…

【イタリア軒】（西堀通七番町）建物の美觀、
内部の整備、調理の吟味は道が株式組織だけあ
る。和洋室夥多あり、撞球場、碁會所、演藝場、
バー等あり特に浴場は大理石を用ひ、尙ほ近く
約三百人を容れる大宴會場の新築計劃がある。
越後一之宮たる彌彦遊園地に支店を有し之れ亦
和洋食共調理してゐる。

【幾野館】（本町通十三番町熊谷小路）同業者
中でも古い方で建物の三層樓は市中の和洋食店

共同館の外に無い。同館は主人公自から毎年中央に出張し調理の視察を行ひ凡ての改善に不斷の努力を傾注してゐる。

〔ポーロ軒〕（寄居町新仲通）最近株式組織に革め、バーを設け、定食券を發賣し、全く面目を一新した。和洋室二様の設備を有し撞球場がある。

〔小黒館〕（古町通八番町）逐年發展して今日の隆盛に進んだ同館は調理の美味と日本式を多く加味した應待振りに特色がある。撞球場の設備あり。

〔其他〕 阿部軒（横門前）開養館（古町通五番町）カチセー（沼垂町）喜樂亭支店（本町通十四番町）東洋軒（古町通九番町）肉泉（西麻島町）菊水軒（西麻島町）等が主なるものである。バー式の洋食店では福壽庵（古町通六番町）力行軒（古町通五番町）花月（古町通八番町東新道）むさし軒（常盤町）松江亭（白山公園）小熊バー（新海驛前）白山食堂（白山驛階上）吉田洋食店（本町通七番町）以上の營業者は「新海料理業組合」「新海西洋料理組合」「新海そば屋組合」等の團體を結合して同業者間の融和を圖り、斯業の改善進歩を劃してゐる。

…(12)…

待合茶屋

◇貸席料◇ 粋な格子戸の立ならぶ古町の花柳界に、春日燈籠や摺硝子の碍子に蔽はれた灯か

げが何ものかを唆る新海の御待合は、多く古町通七八、九番町東西新道に在る。其數三十四軒で之らの待合茶屋の貸席料は雜用に合算して請求するが内譯すれば一室晝間一日金壹圓、夜間も同額で一晝夜通じて金貳圓。料理店の騒音を避けての淺酌低唱は、慥かに情調纏綿たるものがある。飲食費は遊客のた好みに依るが之れとて決して不法の價格を請求する様なことはなく漬物に摘み物で済しても不思議とは思はれぬ程簡便に習慣が出来てゐる。嗜む飲食酒肴は凡て料理店又は仕出し屋より注文の上であるからには比較的高價に當る事は豫じめ覺悟の前でなければ成らぬ。之は敢て新海の待合茶屋のみに就て説くまでもあるまい。

◇主なる待合◇ 待合茶屋中最も古く、客室の數も多く有し、格式も上位にあるものは「近江家」で此家は新海待合茶屋組合の組合長に推されてゐる。また最近の開業で宏莊な構へと云ひ、室内の美觀と云ひ、頗る繁昌してゐるのは「浦島」「喜久本」「喜久春」などである。更に卅四軒の屋號、所在地、電話番号を掲げれば――。

近江家 電話一、五〇三番（古町通八、東新道）
浦島 電話 一三七番（西堀前通九番町）
喜久本 電話一、三〇二番（西堀前八、西新道）
喜久春 電話一、五二六番（古町通九番町）
田川家 電話一、〇七八番（古町八、東新道）
高砂 電話 八五八番（東堀通八、東新道）

…(13)…

- 音羽 電話一、一五四番(東堀通九、東新道)
- 敷島 電話 九三六番(東堀通九、東新道)
- 初音 電話一、二二七番(古町通八、東新道)
- かすみ 電話一、三四四番(西堀前九、西新道)
- 彌生 電話 九二〇番(西堀前通八番町)
- 皆川家 電話 一二番(東堀通八、東新道)
- 品川 電話 七四三番(東堀通九、東新道)
- 舟江 電話一、三六五番(古町八、東新道)
- 眞砂家 電話 七一五番(古町八、西新道)
- 千鳥 電話 八八六番(古町八、東新道)
- 春日井 電話 四九七番(西堀前八、西新道)
- 濱廻家 電話一、三七三番(西堀前通九番町)
- 藤本 電話 三四七番(古町通九、東新道)
- 花月 電話 六五一番(西堀六、新仲通)
- 來馴亭 電話 一七番(古町九、東新道)
- 小富士 電話一、二一八番(古町八、東新道)
- 大和 電話 九八三番(古町九、東新道)
- 立花家 電話一、四五四番(西堀前九、西新道)
- 紅梅 電話 九二八番(古町通九番町)
- 松新葉 電話 五三四番(東堀七、東新道)
- 須磨 電話一、二二九番(古町七、東新道)
- しま家 電話一、一九四番(古町九、西新道)
- 若松 電話 二八〇番(古町八、東新道)
- 東雲 電話一、六五五番(古町八、西新道)
- 氣晴し 電話 六四五番(東堀九、東新道)
- 玉家 電話 五八三番(東堀八、東新道)
- 瓢家 電話 六〇六番(西堀前八、西新道)
- 二葉 電話 五六九番(古町通九番町)



わ國自慢の雪の肌
新潟の女

今昔の新潟美人

□人形の様な女□ 新潟の女——越後の女——は薄情である、情熱に乏しいと觀察され、批評されてゐたのは随分古い時代からであつた。自然新潟女は異性に對して殆んど機械的であり、「人形の様な女」と謂はれて來た。斯く機械的な人形の様な女を作らしめた原因の一つとして往時交通機關の不備から一種特異な型に作られてしまつたのであるといふ者もある。併し概して新潟の最も接觸した土地は關西方面の人々であつた。故に化粧の仕方、模様の好み、衣裳の着方等は京都風を加味して發達したと傳へられてゐる。然るに昨今交通の發達完備と共に東京に接近した爲めか、東京風が加はつて來た。古來新潟美人を仕立るには上品に高尙にと仕込んで來た爲めに燃ゆる情熱も抑制されて若い時代を過ごすのであつた。新潟女の薄情と云ふことは決して眞實の新潟女評では無く、當時周圍の環境が冷靜な、た上品振つた女の型に箝め込んで來たのである。

□時は移り行く□ 去り乍ら、時は刻々に進み萬象悉く變遷の跡を遺すと同時に、我が新潟美人も昔日の如く冷淡な、薄情な、機械的な女で

は無くなつた。昨今の新潟女には愛も識り、戀も覺わ、情もある。戀と愛の縦糸へ、情熱と意氣地の横糸を織込まねば成らぬ女が其處此處に現はれて來た。寡黙な女、人形の様な女が追々廢つて行くのは最早争はれぬ事實で之も時代の生んだ變化の一つであらう。美人の産地として名高だけあつて今でも萬金を投じて新潟美人を購ふ粹士が年々二三はあるが、僅か一夜の相識つた同志が戀に陥ち嵩じた果が未來永劫までと固い誓ひのもとに夫婦仲となるのも決して珍らしくは無いのである。

□男の子と杉の木□ 何時の頃から言ひそめたのか「新潟は男の子と杉の木は育たぬ」と云ふ言葉が遺つてゐる。今日尙ほ新潟は果して男の子が育たぬか否かは別として矢張女の都でなければ成らぬ。美人の本場女王國の新潟に現在幾何の美人が有るか、即ち古町、北廓を合した西新潟には一本の藝妓が三百四十九人、半玉が八人。沼垂には一本藝妓が五十七人、半玉が一人ある。但し之は藝妓免許之証と記された鑑札所持の者のみで、見習藝妓と稱する、所謂藝妓取締規則に依る満十二歳以下の雛妓が三個所の花柳界を合して約二百人ある。大小取混ぜての美姫六百十四人ある譯である。而して此藝妓の棲む藝者家は古町、北廓で百五十三軒、沼垂町に廿七軒ある。藝妓は満十四歳以上の者は藝妓税として月税一等地縣税金六圓五十錢及び同税市税附加

税金六圓五十錢計金十三圓の外置屋税として縣市税共月額金四圓六十錢を納入してゐる。(満十二歳以上の半玉は半額)。沼垂町は四等地として月額縣市税共金六圓である。

□た披露芽□ 新潟の藝妓を吟味すると子飼ひ丸抱ひ、賣分け、小物持ちの種別がある。子飼ひとは幼時より養女となつて成長した者で丸抱ひは即ち年期妓である。之は一定の契約年限内稼業上の費用は凡て抱ひ主の支辨に依り収入は全部抱ひ主の所得である。賣分けは稼業上必要物品全部本人の負擔で一個月間の總収入金より税金を控除し殘額を折半して抱ひ主と本人が分配する。本人は分配された半額の収入金より住込み當時の前借金を償却する事になつてゐる。又抱ひ主は折半して所得した金額を本人の賄料其他の費用に充てるのである。小物持ちは稼業上即ちた座敷衣裳は抱ひ主の負擔で髪道具指環等は本人の調度するのであるが昨今は此小物持ちは極めて少數で大部分は賣分けである。次に子飼又は年期妓にして満十四歳に達する時は規則に依つて一本の鑑札となるのであるから十四五歳にはた披露芽をする慣例である。新調の衣裳持物で一人一千圓乃至四千圓の費用を投するなど珍らしくないが之は此社會に於ける一種の盛儀である。た披露芽の時初めて振袖に矢の字結びの衣裳の處へ裾を長く曳く、夫れ迄は裾だけを揚げてゐるので一見見習藝妓たることが判

別される。十八九歳には更に止め袖と稱して振袖を脱いで姐さん姿に衣裳萬端取替へる。一年中に於ける藝妓の更衣は一、二、三、十二の四個月間は綿入二枚重ね四月、十一月は綿入一枚、五月、十月は袴、六月、九月は單衣の厚物、七八の二個月は絹其他の薄物單衣を着る事になつてゐる。

藝代 (線香代)

□古町と北廓□ 藝代は古町北廓と沼垂町で時間の上に差違がある。即ち古町と北廓は藝代一本金廿五錢で一本の時間は十分時間である。た約束ともいふべき仕舞切りは二時間卅分で十五本であるが此場合着衣は紋付を着用する様に指圖すると二本を増すが仕舞切り時間以内に宴席が終つた時は待つた時間だけの藝代で必ず約束の十五本を拂はぬともよい。唯、時間だけの藝代外に一本を増すことになつてゐる。膝突きと稱し最初座敷へ出ると直ちに二本分の藝代である。併し、古町藝妓がポーロ軒、三安又は北廓方面へ招かれた場合、北廓藝妓が古町方面へ招かれた場合は膝突きが三本又は四本と極められてゐる。遠出料即ち終日の仕舞切りは一日金十五圓といふことに古町及び北廓の各藝妓組合で内規を設けて置くが臨機應變の場合がある。□沼垂町の藝代□ 沼垂町は同じく一本金廿五錢ではあるが廿分時間を一本としてゐる爲めに

結局古町及び北廓の半額の割合になつてゐる。□藝代に就て□ 藝代は新潟三個所の花柳界共檢番を有しない爲めに藝者家は個々別々に料理店へ一定の支拂日に藝札と引替に行く。其時は一本に就て金五錢宛ハチ錢と稱して除かれ實收金廿錢が藝妓の収入となるのである。見習雛妓の藝代は半玉の半額と同様で大した變りはない新潟は芝居小屋の如き興行物へ藝妓を伴ふて行つても夫れに要する費用は支拂はねば成らぬが此時間中の藝代は不必要の習慣になつてゐる。全市總じて藝代の外に極りといつた花(祝儀)は請求しないので遊び易い。但し下さる物ならば夏の小袖の例へで厚意上下さる祝儀は辭退しない。此場合は料理店の帳場に命ずるもよし、又自身料理店等に関係なく現金を遣はすもよしである。

■新潟名物

一(おけさ踊)一歌詞

仇し、仇し仇浪寄せては返す
寄せて返してまた寄せる。

山でけつころがした松の木

つまさ定まりや辛抱する。

一(相馬甚句)一歌詞

相馬中村のしんかい樓が焼けた
睡て金さる其ばちか。

相馬よいさこ木茅がなびく

なびく木茅に花がさく。



遊藝と演藝から
観た新潟
花柳新聞

遊藝と師匠

◆舞踊の師匠◆ 新潟の花柳界は遊藝の練習に努力してゐる事は敢て他に劣りはしないと思ふ遊藝師匠として市内に多数ある中にも、舞踊の方は市山七十世、藤間小藤の兩師匠が對立して三個所の花柳界に在る藝妓は其内の何れかに屬す門弟として修得してゐる。殊に市山七十世は自費を投じて新潟研誦會なるものを組織し、春秋二期に劇場大鶴座で門弟の技藝を舞臺にかけて稽古の實績を示してゐる。將來は京都の鴨川踊や大阪の芦邊踊浪花踊の如く新潟の一名物としたい企てがある。其他清元は毎年一回、義太夫、鳴物、長唄等の各師匠は隨時温習會を催ふして新潟市に於ける斯道の發達を促してゐる。

◆新曲とた座敷藝◆ 前記兩派に屬す藝妓の爲めに市山、藤間の兩師匠は新春の嘉例により新曲を作曲振付して松の内だけた座付に姐さん株の地かたでた座敷に踊る様にしてゐる。た座敷に於ける大宴會の舞踊又は空囃子は其時々に応じて適當のものを好みの儘に勤めてゐる。斯うした時の祝儀は一定してゐないから然るべく與へる事になつてゐる。

◆師匠と遊藝調べ◆ 各種遊藝の師匠と藝妓中

得意の遊藝を左に掲げる。△印は姐さん株の藝妓である以上、凡ての交渉は斯うした人々を介した方が得策であると思ふ。

▼遊藝師匠▲

- 舞 踊 市山七十世 (古町通九番町)
- 舞 踊 藤間 小藤 (西堀前通八番町)
- 舞 踊 今川事 市山七十菊 (古町通九番町)
- 鳴物及長唄 (三島屋事) 望月 太三 (西堀前通八番町)
- 同 (くし勝事) 梅屋 福勝 (西堀通七番町)
- 同 (歌々屋事) 鍋田 佳兒 (古町通九番町)
- 同 (松白根事) 杵屋六遊喜 (東堀通七番町)
- 同 (村上屋事) 杵屋喜與志 (古町通九番町)
- 同 杵屋 六愛 (古町通九番町)
- 清 元 清元延葉吉 (東堀通九番町)
- 常 盤 津 常盤津糸春 (東堀前通九番町)
- 新 内 (木徳事) 富士松春太夫 (古町通八番町)
- 義 太 夫 (駒屋事) 竹澤 彌吉 (西堀前通九番町)
- 同 竹本氏之助 (西堀通八番町)
- 同 竹本小登貴 (沼 垂 町)

▼得意の遊藝調べ▲

一回古町藝妓一回

- △新月島たか △越中家きし
- △新櫻家ぎん △新今町家 ふじ
- △新皆川家いま △春よし 靜江
- △白根家きん △新村上家喜美次
- △附島家さし 新村上家 叔
- △新皆川家歌蝶 △唐津家きち

三味線(唄)

- △新村上家喜美次 △新會津家つる
- △附島家さし 三島家千代
- △吉田家時子 越中家力彌
- 大かわ、鼓

太鼓

三島家千代 新月島太郎
櫻家さく 新會津家つる
白根家 壽喜香

笛

皆川家ひで 新會津家つる
福平田家さし 眞三島家なり
月廻家勝男 都家 福龍

舞踊

白根家きん 越中家力彌
佐藤家しげ 吉田家時子
大山家勝利 玉家ちやら
鴨會津家たい子 新月島五郎
水上家一子 梅澤千代
梅澤一梅 梅澤萬里子
今町家菊壽 附島家節子

義太夫

新月島たか △磯野家みつ
△新磯野家はな △鳥清 △吉
△松村上家金太郎 △新鹿島家みどり
(長唄、清元、常盤津)

(美音)

山 際 さめ 水上家小福
△鴨會津家しげ 佐藤家しげ
伊勢家菊榮 白根家千代次
桂家玉龍 都家福龍
△皆茂登たに 月廻家年榮
村松家さね 村松家花香
平田家柳次 新鹿島家小かつ
三條家園子 春よし君香
中村家春代 新駒國子
(新内)木徳 順子 唐津家 かるた
(新入)富士島はん

一回北 廊一回 (種別せず)

△大月家小はる、△四月よよ、金澤樓みす、櫻家勝子、白根家もん、(琵琶)月川家ふい

一回沼 垂一回 (種別せず)

△石崎家小さき、△藤屋さく、鶴善樓たか、鶴善樓八千代

演藝機關

●**二大劇場**● 本市の二大劇場は大鶴座と新潟劇場である。其外七個所に活動寫眞常設館あり二個所に寄席がある。

▲**大鶴座**▼ 従來の改良座を大正十年七月六日改築竣工し尾上梅幸、松本幸四郎一座により開場初興行を爲す。建物の間口十四間、奥行十八間、舞臺の幕摺十間、奥行六間半、化粧室、案内所等あり舞臺は總檜造、場内梧葉材を用ゆ。樂屋敷は十四室にして小道具、大道具、鬘、衣裳の各部屋の外浴室の設けあり。(大かつ興行部經營、所在古町通九番町電話九百十番)

▲**新潟劇場**▼ 株式組織資本金卅萬圓(半額拂込)大正九年七月一日落成、尾上菊五郎、大谷友右衛門一座にて初興行。建物間口十七間奥行廿四間、舞臺間口十一間半奥行八間、樂屋敷は十室、外に衣裳、大小道具部屋、食堂、喫煙室、賣店、化粧室、直營案内所あり。(所在東堀通九番町、電話二一九番五二七番)

▲**寄席**▼ 本五座(西廐烏町)明治座(沼垂町)
▲**活動寫眞常設館**▼ 大竹座(古町通八番町)大かつ興行部經營)電氣館(古町通六番町)金

比羅館(西厩島町)新潟館(横七番町一丁目)丸山館(古町通十二番町)港座(大かつ興行部經營、沼垂町)白山館 白山新公園)

花柳記事と文士劇

◎花柳新聞◎ 花柳界の消息、珍説、改善、紹介等の記事を掲げてある新聞紙中最も古いのは週刊「新潟公友」である。同紙は明治卅五年の創刊にして第一號より今日まで引續き「がらくた」なる一欄を設け且つ外に花柳界の改善發達に資すべき有益記事を掲げ陰に陽に本市の發展に盡してゐる。其他近年に到りて發刊されたる新聞紙中花柳記事を掲載する主なるものは週刊「新潟日曜新聞」には「きびだんご」欄、旬刊「さきがけ」には「花かご」欄、週刊「東北時報」には「ふるまち」欄等がある。

◎舟江文士劇◎ 演藝の部類に入れるのは本意でないが便宜上茲に紹介するのは市内新潟毎日新潟新聞、新潟朝日の日刊紙、新潟公友、新潟日曜、新潟公論、東北時報の週刊誌、新潟さきがけ、新潟タイムズの旬刊誌九新聞の記者によつて組織されてゐる「舟江文藝協會」は劇に據つて藝術を研究する目的の下に、毎年秋季の候に「舟江文士劇」を大鶴座に公演し既に第二回を公開してゐる。將來協會員協力に成れる脚本發表の機關たらしむると云ふのである。

X X X

大正十一年七月七日印刷
大正十一年七月十二日發行

定金壹圓

新潟市西堀通三番町

著作兼發行人 垣 原 正 人

新潟市東仲通二番町

印刷人 宮 澤 光 治

新潟市東仲通二番町

印刷所 新潟公友社印刷部

同 市同 町同番町

發行所 新潟公友社

【電話一六六番】

西 洋 御 料 理

△歐米風の調理

△撞球場の完備。

△新設バーに

△定食券の發賣。

△晝夕食堂開始

△洋風食堂あり。

△日本室や

△娛樂室あり。

以上は弊軒の
主なる特色に御
座候間是非御來
車の程伏て奉願
上候

株式會社 波 一 口 軒

新 潟 市 寄 居 町 (通仲) 電話 二 七 六 番

—○—
 ○ 理 料 御 ○
 —○—

信濃川産名物八ツ目

高 山 樓

新 潟 市 東 新 堀 通
 九 番 町
 電 話 八 〇 九 番

御 待 合

每 度 御 最 負 〓 を 蒙 り
 難 有 〓 存 じ 〓 ます。

舟 江

新 潟 市 古 町 八、東 新 道
 電 話 一 三 六 五 番



新 潟 市 古 九

大 鶴 座

電 話 九 百 十 番

新 潟 市 古 八

大 竹 座

電 話 七 百 七 番

新 潟 市 沼 垂

港 座

電 話 六 百 六 番

二 供 提 眞 寫 新 週 毎 二
 二 場 開 回 二 夜 晝 日 毎 二
 二 (休 無 中 年) 二
 約 特 マ ネ キ 竹 松



新 潟 市 大 か つ 興 行 部



御 料 理

仕 出 し

新 潟 市 古 町 通 九 番 町

有 明

—【 電 話 一 〇 二 一 番 】—

新 潟 市 古 町 通 八 番 町
電 話 一 〇 二 六 番

長 門 ず し

御 好 み に よ り 何 ん な り と も 調
製 仕 べ く 候 間 御 用 命 願 上 候

御 ず し

紅 梅

新 潟 市 古 町 通 九 番 町
電 話 一 〇 二 八 番

御 待 合

御待合は

松新葉

松新葉は

新海市古町七、新道で

電話は五百三十四番

御待合

御立 奉 待上 候

新海市古町八番東新道

田川家

(電話一〇七八番)

西洋料理



幾野館

新海市本通三十番町

電話三三二二番

御待合

……御來遊奉待上候……

(諸事御手輕に勉強可仕候)

新潟市古町通八番町西新道

東雲

電話一六五五番

御待合で!!

た遊びの節は

是非私方へ御越し遊ばす様
御願ひ申上げます。

新潟市西堀前通九番町

御待合 (立花家)

(四新道
電話一四五四番)



橋と柳の

新潟 情調を

靜かに味合ふ

……ことの出來まするのは

御待合 近江家

何卒御來遊待上奉り候

新潟市古町通八番町東新道

御待合 近江家

電話一五〇三番



御 待 合

新築漸く落成
仕り萬事丁寧
懇切に勉強可
仕候間御愛顧
の程奉願上候

ふじ本

(新潟市古町九番町東新道
電話三三四七番)

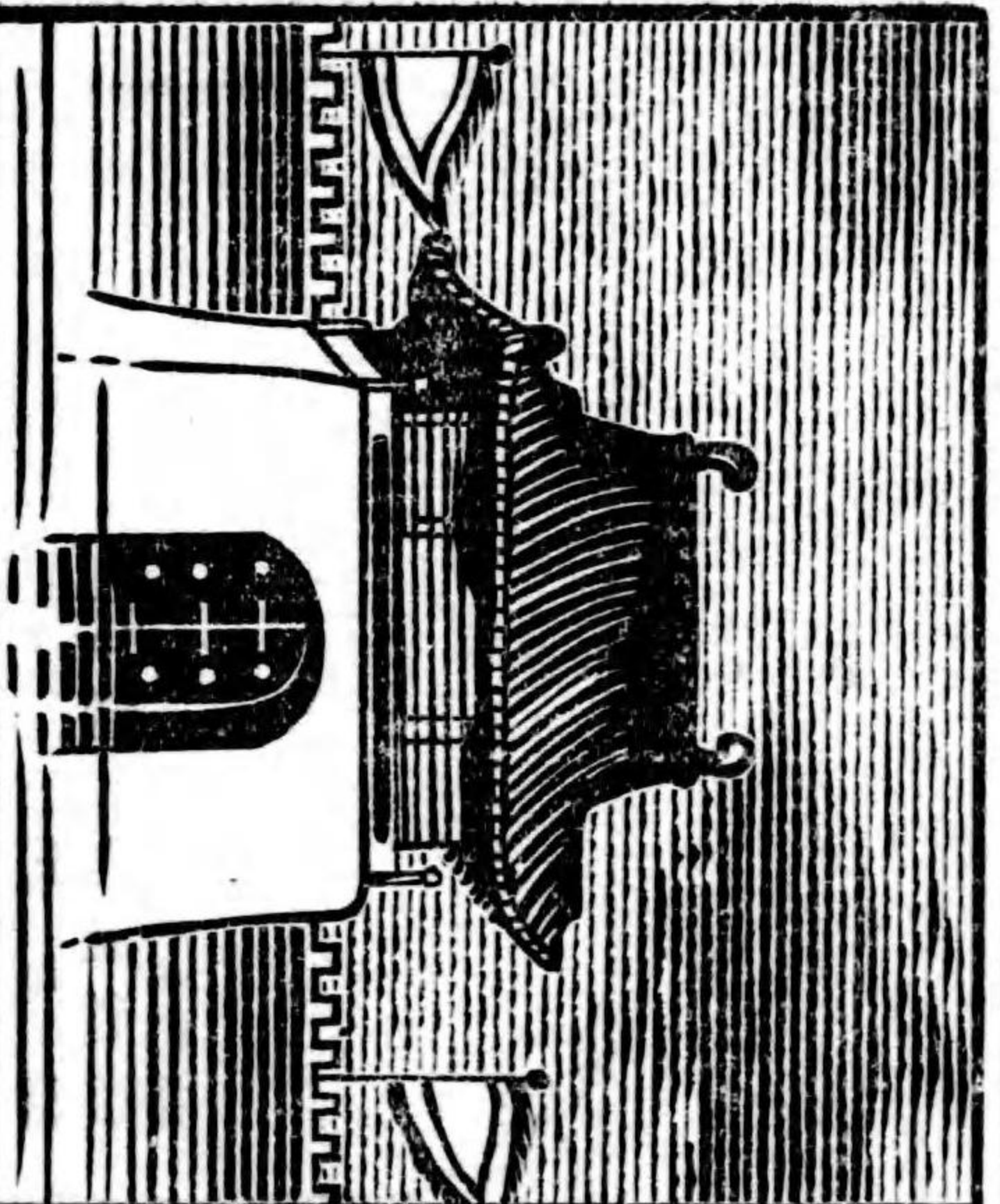
毎度御愛顧を蒙りまして
誠にあり難う存じます。

御 料 合

何卒一層御引立の上御來
遊なし下さる様御願ひ申
上げます。

小 富 士

(新潟市古町八番町東新道
電話一三二一八番)



浦 待 合

新潟市西堀番九
番特園一三七番

島

御料理

行形亭

(新 潟 市 濱 西 大 畑)

電話 (一七〇七) 番

御料理
鍋茶屋

新 潟 市 東 新 道 八

電 話

五六一〇番
五六五番
五六五番

柳の影を水にうつして

きらめく紅燈の光は

新潟ならではの眺めゆめ

情景でまた一しほの感興

があります。どうぞ御來車

の上御最良の程奉願上候

御料理

即席、會席

(調理吟味、誠實勉強、懇切丁寧)

金子樓

新潟市東堀通八番町

(東新道新堀角 電話四五九番)

御待合

ゆるく御遊びになりま

すには閑静な

花月に

かぎりあります。

新潟市西堀通六、仲通 電話六五一番

御

新潟市 玉

古町通

八番町

待

合

電話 五八三番

家

御待合

御來遊奉待上候

皆川家

新潟市東堀通九番町東新道
(電話一三二番)

御待合

新潟市西堀前通九番町
濱廼家
電話一三三七番

西洋料理

イタリヤ軒

新潟市西堀通七番町 本店
越後彌彦遊園地 支店

即席會席
和洋
御料理仕出し

▲本店は新築竣成し大小御宴會には好適と相成り調理萬端精々勉強致すべく候

▲支店洋食部は階上日本室も有之、階下バ
ー式食堂と致し御便利且つ御手輕に致し
をき候

▲夏季は日和山下海岸に支店を設け海水浴
の皆様をた迎へ申しをり候

新 市	本 店	横 門 前
支 店	喜 樂 亭	電 話 四 五 五 番
濱 支 店	日 和 山 下 海 岸	電 話 四 五 五 番



御待合

御來市の節は何卒
御來遊奉待上候

喜久春

新潟市古町
通九番町
電話一五二六番



御待合

新潟市西堀前九、西新道

かすみ

電話一三四四番

新潟市古町通八、東新道

千鳥

電話八八六番

御待合

萬事御手輕
に可致候間
何卒御最負
の程御願ひ
申上候

新潟市古町通丸番西新道

しま家

(電話一四九番)

新潟の傾斜巻に粹な格子のたち
並ぶ東新道八番町には

御待合.....として

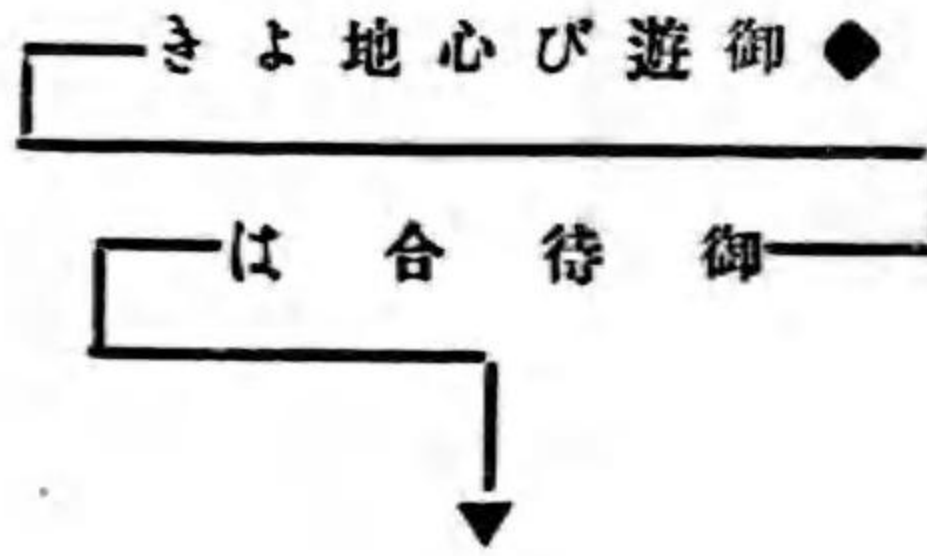
最も御意に召す様萬般の用意を
整へてなきまするのは私方ご御
自慢申上げます。どうか御立寄り
下さいまし。御待申して居ります。

新潟市古町通八番町東新道

御待合 若松

電話二八〇番

御待合



氣ばらし

×新潟市東堀通丸番町×
×新潟市東堀通丸番町×

(電話四六五番)

本市キネマ界の先驅者

尠く共意義ある映畫を欲せざる人は時代に遅るゝ人なり。當館に映寫するフ井ルムは毎次日活嶄新のもののみなり。

日活特約

活動寫眞常設 **金比羅館**

新潟市西厩島町
電話 千百番

明け行く沼垂町に

眞實遊び心地よく皆様のた氣に召す

お茶屋は？即ち弊亭で

あらうご存じます。

○ 卽席會席 **御料理**

新潟市沼垂町長嶺(停車場通)

鮮魚仕出商 **文 廼 家**

(電話呼出一三四六番)

下戸さんも

上戸さんも

御待合 きなれて

古町九東新道
電話 十七番

△△ **御料理** ▽▽

鳥料理は弊樓獨特に有之候其外調理

は材料精選吟味の上如何様にも御氣に召す様可仕候間御來遊の程御願ひ申上候

新潟市東九新道

と り 國

電話 (長) 一五三三番



株式會社

新潟劇場

電話二百十九番
五百二十七番

資本金參拾萬圓を以て株式組織となり
市の中央に建設大正九年七月開場した
る者にて間口十八間三尺奥行二十九間
を以て十二間の舞臺面六間の廻り舞臺
表面は四階建四圍は最新式鐵網コンク
リート耐火構造です。場内には化粧室並
に割烹大島亭出張の食堂の設備あり。年
中無休で開場いたして居ります。入場人
員は優に二千人を收容し宏壯優美なる
大劇場で、實に裏日本に於ける斯界の華
です。

終

